

嚴島圖會

寶物之部
卷之六

冊	函	號	類
一〇	一〇	二九〇七二	和書門

庫	文	閣	內
七五函	一〇	二九〇七二	和書類
一三架	冊	號	

內閣文庫	
番號	和 29072
冊數	10 (6)
函號	175 187



教部省
文庫

圖書
文庫

圖書
文庫

圖書

內
一〇二一三號

廟宇駕勢抱以璽璫
藉軋園神庫依絕境
秘藏千古物海龍所
所護相戒慎鑄鑄世守
吾所知公富緣法既閱蕊
經平換寫其廟宇之字楷

栗日晶軸金題篆鐵銅函
卷弄八標暉錯繪圖
隱謎難辨詰駟伏均免
如倚媚憑神佛威權清
雲未飛跡存墨墨華
哀共養和帝細衣蜀

第
一

錦燄託胎角犀家葵
骨斂骨龜密獨欽小松
公輕甲遺法鐵應振
待溪門免回檀浦端世
代遙遷移芳鼻駢陳
列仁山納寶刃桐菊餘

其室恒日庶皇詔神
旌決犯闌阿隆駁集
錯絲緗緞黑札何如賊
刃刺穴情防身密更
見劍雄雄錫馬鞞鞞
秘劍名認衛錦三五

冒畫一江公怒元賊疇
或濟鯨鯢血我此年
神所若某名前日足
後一長刀敵者漢
去一揮柄情匪再揮
掃溟渤鷗首輕系一

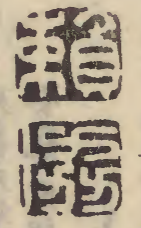
肩點禱吞日没人事
雙雲煙神止長截山薛
大息象以階初舟緣存
越回醉謫之台夕陽雪
尊子以
伶伯子轉道余觀

神屏訪藏歸館賦廿
以頌以紀乃自之事

賴表



右先人手書協盟手謹臨為宮崎生屬



文治五年解所押
嚴島御社印



天喜元年解所押
安藝國印



嚴島寶物圖會

凡例

- 一 當社ノ技倉ハ草創ヨリ以來兵燹ノ災害ヲ遁レテ神寶棟ニ充レドモ樂器經卷刀劔甲冑ナドノ外有用ノ具ニアラザルモノヲバヨサシク省キテ収メス
- 一 技倉ノ開閉容易カラスコレニヨリテ毎年ノ七月虫拂ノ節ニ閱スルニシタガヒテ収入セシカバ世次年代ソノ序ヲタ、スコト能ハズ
- 一 偽贋ニ涉リテ疑フヘキコトアル物トイフドモ或ハ社傳ノ由來ヲバシク或ハ證據ノ指摘ナキカ、ルタダヒマ、多シイマコトクク収テ以テ博覽ノ資トナセリ古史實錄ニカナハヌコトアリトモミタリニコレヲ嘲ルヘカラズ

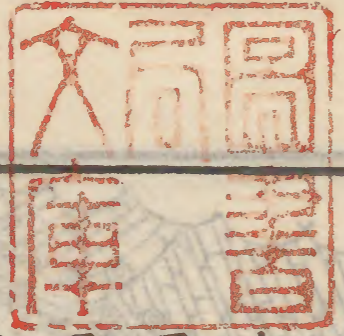
一物ノ名目俗ニシタガヒテ雅ナラザルコト多シタトハハ經卷ノ
 標褫ヲ或ハ袖トモ或ハ表紙トモカケルガ如キミナコレ寫
 手ノ便ニシタガヒテノワザナリ餘モ准ヘテシルヘシ
 一弘法大師真蹟ノ三摩耶經ハ海内無比ノモノナレドモコ
 レヲ平家ノ寫經トオナジクシタバ兩三行ノミ摸寫シ出
 セルハ紙葉ノイタツラニツフヲイトヒテナリ後日別一全文
 ヲ刊行シ臨池家ノ觀覽ニソナヘントス
 一画ハミナ姓名印章ヲ載セテソノ人ヲアラハセリ姓名印章
 ナハヒトリ俊峯齋守嗣ノ筆ノミナリ

嚴島寶物圖會卷之壹

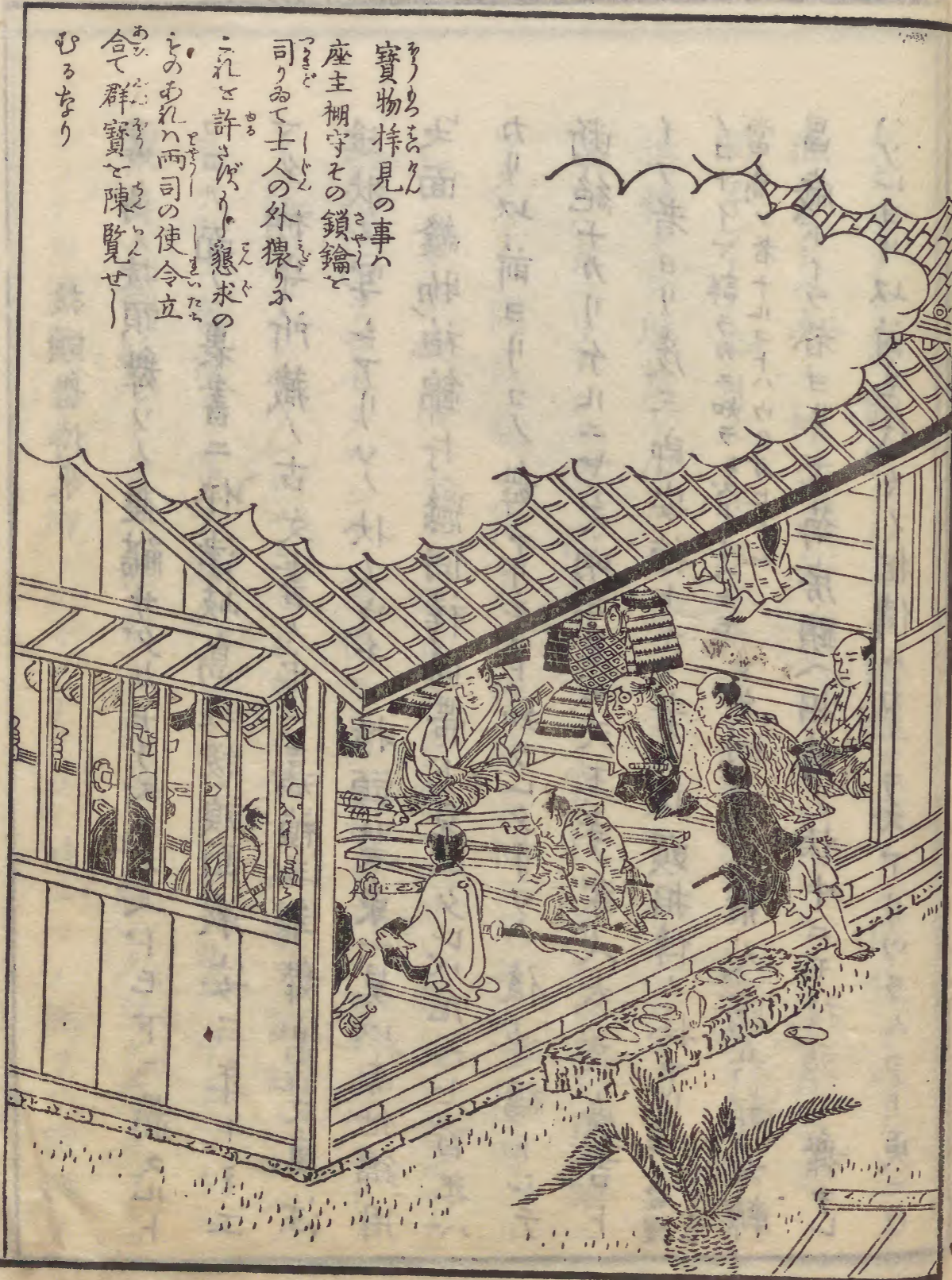
目錄

内二〇二二三號

- | | | | |
|-------|--------|--------|-------|
| 抜頭面 | 還城樂面 | 羅陵玉面 | 納蘇利面 |
| 散手面 | 貴徳面 | 採桑老面 | 按摩二舞面 |
| 未詳面 | 奚婁 | 鼗 | 笙 |
| 高倉帝御扇 | 檜扇 | 安德帝御産衣 | |
| 同帝御石帶 | 同帝御笏 | 同帝御劔 | 同帝御矢 |
| 同帝御扇 | 黄揚駒 | 琴 | 駐腦笛 |
| 沈枕 | 弘法大師佛具 | | 同大師袈裟 |
| 和琴 | 箏 | 琵琶 | |



寶物持見の事ハ
 座主棚守その鎖鑰と
 司りて士人の外獲りか
 此れと許さばりて懇求の
 上のちれハ兩司の使令立
 合て群寶と陳覽せし
 びるなり

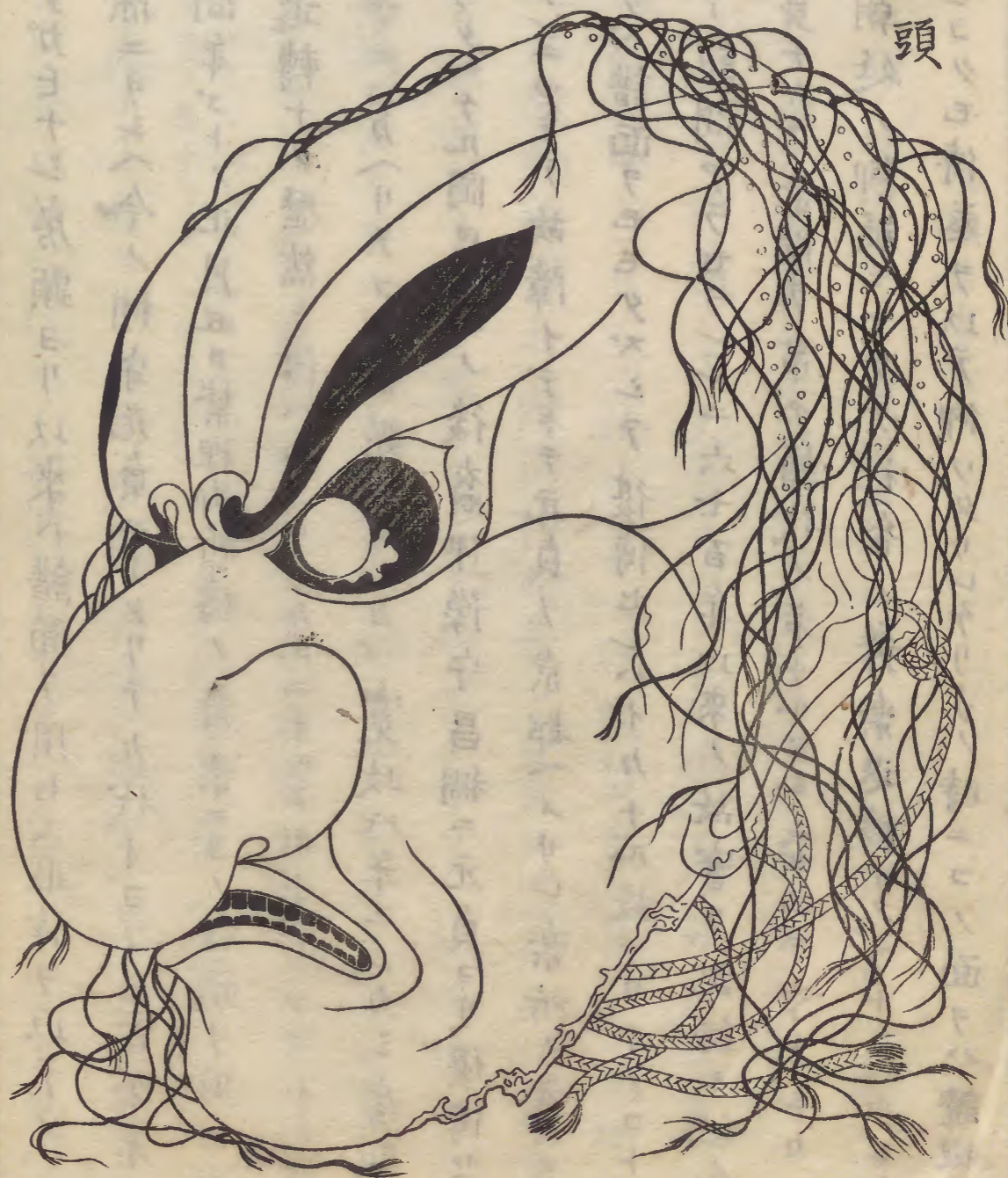


抜頭舞傳來

當島ノ抜頭舞ソノ盪觴サダカナラストイヘドモ下ニ面スルト
コロノ面ノ裏書ニ伊津岐島社抜頭面承安三年トミエ
マタ棚守所藏ノ古文書ノ中ニ嘉禎三年舞樂裝束注
進狀ノ写シアリソノ狀ノウチニ抜頭裝束一具以赤地錦用
之面縫物袍錦打懸同袴同帶ト見エタレバ凡六七百年バ
カリ以前ヨリコノ舞アリシコト知ラレタリソノ後連綿トシテ
断絶ナカリケルニヤ文明三年ニ天王寺樂人太茶廣吉ト
イフ者ヨリ彦三郎安種トイフ者へ抜頭相傳ノ狀アリコノ安種
トイフ者
ノコトイマ詳ラカニ知ラズトイヘトモマタ同寺ノ樂人岡兵部大輔
當島ノ者ナルコトハウタガヒナシ
昌歲トイフ者ヨリ戈菊房頭へ相傳ノ狀中ニモ抜頭ノ舞アレ
ハソレヨリ以前モ代々ノ相傳ハカナラズアリツラムコト更ニウ

夕ガヒナシ房頭ヨリ以來ハ譜面ヲ用ヒズ所作ヲ以テソノ子
孫ニヲシヘ今ノ棚守元貞ニイタリテ九代オヨソ三百余年ノ
間年ゴトノ正月五日禁裡御祈禱ノ舞樂ニコノ抜頭ヲ用ヒテ
退轉ナク歷然ト傳へ來レリシカルニイツノホトニカアリケン天主
寺ニハカヘリテコノ樂断絶セシカバ寛政八年ニムカシ房頭ニ
ツタヘケル岡昌歲ノ後裔伊豫守昌綱ニ元貞ヨリ復傳セリ
ソレニツキテ故障イデキテ元貞ヲ京都へメサレ樂所ノ者ニモア
ラズ譜面ヲモモタズシテ復傳セシハイカナル故アリテノコトゾ
ト訊問アラセラレシニ六七百年以來ノ故實ヲ記録シ社人ノ
身ナカラ樂役ヲ帶テ譜代ノ者ナルヨシ永女曲ニ申上シカバ
朝廷ノ御疑モトケテ社祭ノ舞樂退轉ナクツトムヘキヨシカ
シコクモ傳奏ヲ以テ仰ワタサレケリソノ時ニコノ面ヲハ證據ノ

抜頭



面朱漆眼眉齒ミナ黒漆髪緋麻ノヨリ糸面堅一尺ヨコ耳ノウヘ七寸一命

面ノ裏黒ヌリ赤漆
ニテウラ書アリ

伊津伎海社 抜頭面 永安三
勝寺本竹師行明

兼安ノ年号磨滅シテ永安ノ如ク見ユシカ
レドモ下ニ兼ノ字炳焉タルモノアリカレヲ
以テコレヲ知ベシ

振頭

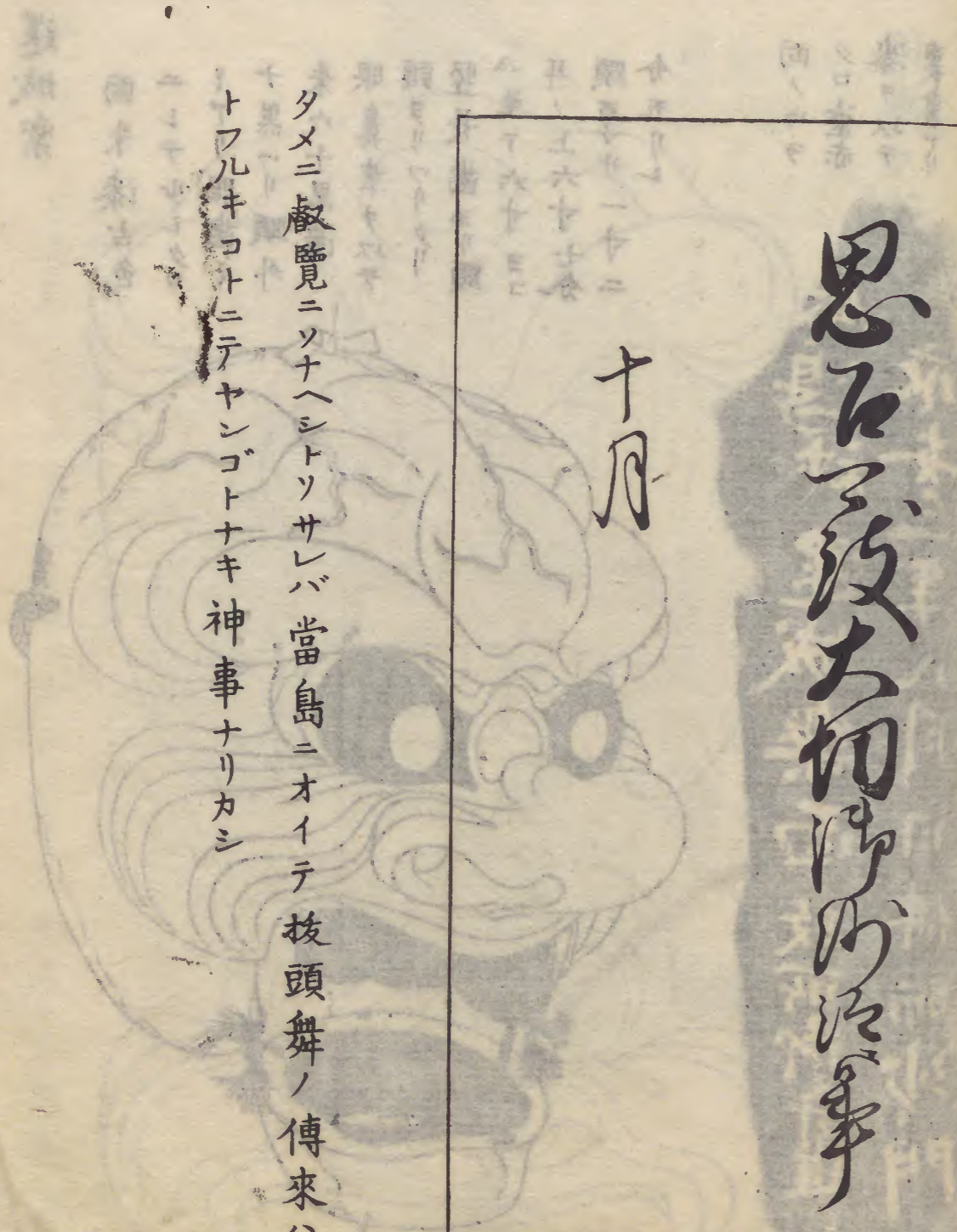
廠覽ニソナヘシトソサレバ當島ニオイテ振頭舞ノ傳來ハイ

古為殊勝

思石ニ波大切

十月

夕メニ廠覽ニソナヘシトソサレバ當島ニオイテ振頭舞ノ傳來ハイ
トフルキコトニテヤンゴトナキ神事ナリカシ



還城樂

面朱漆古色
ニシテ少シクロ
ミアリ眼齒ミ
ナ黒ツリ願外
朱ウチ黒漆
眼鼻革ヲ以テ
頭ヨリツリタリ
豎長齒ヨリ頭
ニ至テ六寸ヨコ
耳ノ上六寸七分
願厚サ一寸ニ
分五リン



面ノウラ
クロ塗赤
漆ヲ以テ
裏書アリ

辰鴻社還城樂面政所御奇進
永享二年八月日佛師沙門

同裏ノ圖

倅尊勝直本



新玉

面朱漆古色ニシテ少シクロミアリ眼齒ミナ黒ツリ願外朱ウチ黒漆眼鼻革ヲ以テ頭ヨリツリタリ豎長齒ヨリ頭ニ至テ六寸ヨコ耳ノ上六寸七分願厚サ一寸ニ分五リン

陵王

面金箔ヲオケリ髪空青眼中金鼻ウチ朱齒黒ヌリ鬚眉トモニ馬尾釣願外金中黒



龍眼中白マフチ朱
髪朱モホリツケ
ロク青ノモガキアリクチノ中
朱ウハ願金ウロコ朱ノカキワケ
緑青彩リ鱗彫物朱緑青ノカキワケ
クテ龍ノ頭毛上腮ノ下齒ノトヨデ一尺三寸二分
横耳ノトコロニテ五寸八分強

裏黒ヌリ龍ノウラ
朱クシ音ロク音胡
粉鱗カキワケ



堅二寸三分強

納蕪利

空音古色
ニシテ詳
ナラズ
眼ノフ
千朱
唇朱
鼻ノ
中朱
ウラク
口塗裏
書赤漆ヲ以テカケリ

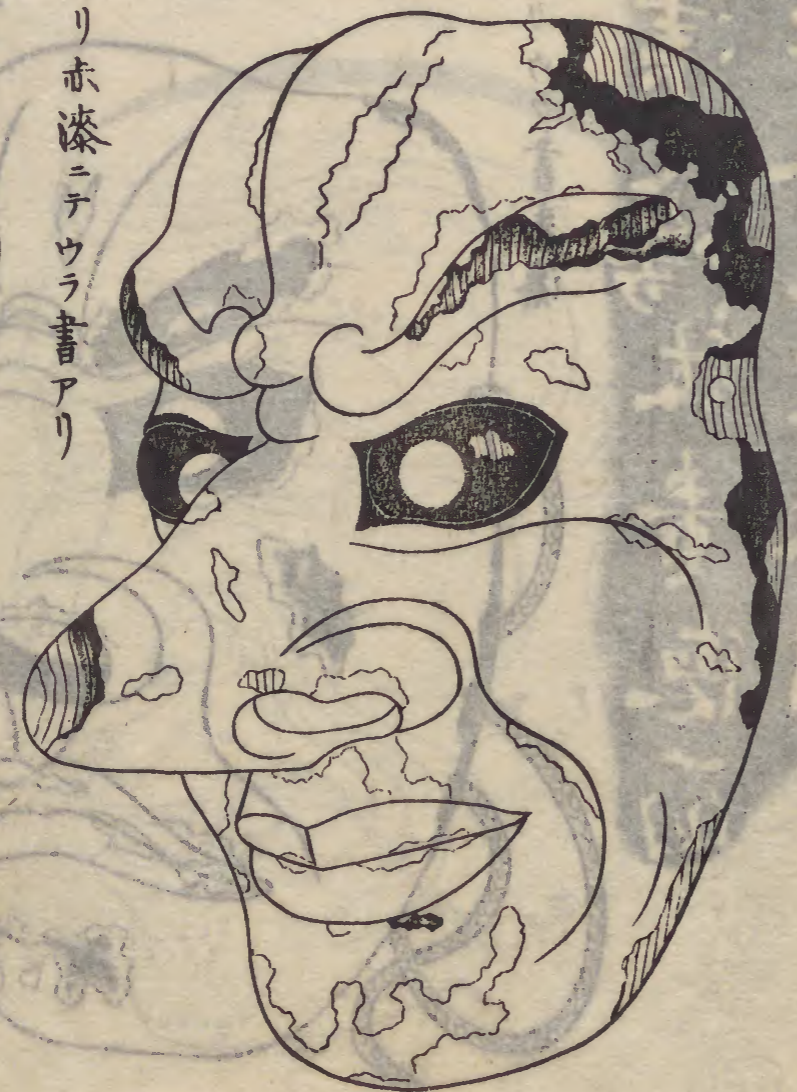


頭ヨリ順ニテ七寸六分強
ヨコ耳ノトコロニテ五寸四分

納蕪利
面
至
至

散手

面朱眼
中クロ
翌長七
寸八分
ヨコ紐
付ニテ五
寸二分



裏クロヌリ赤漆ニテウラ書アリ

伴漆伎

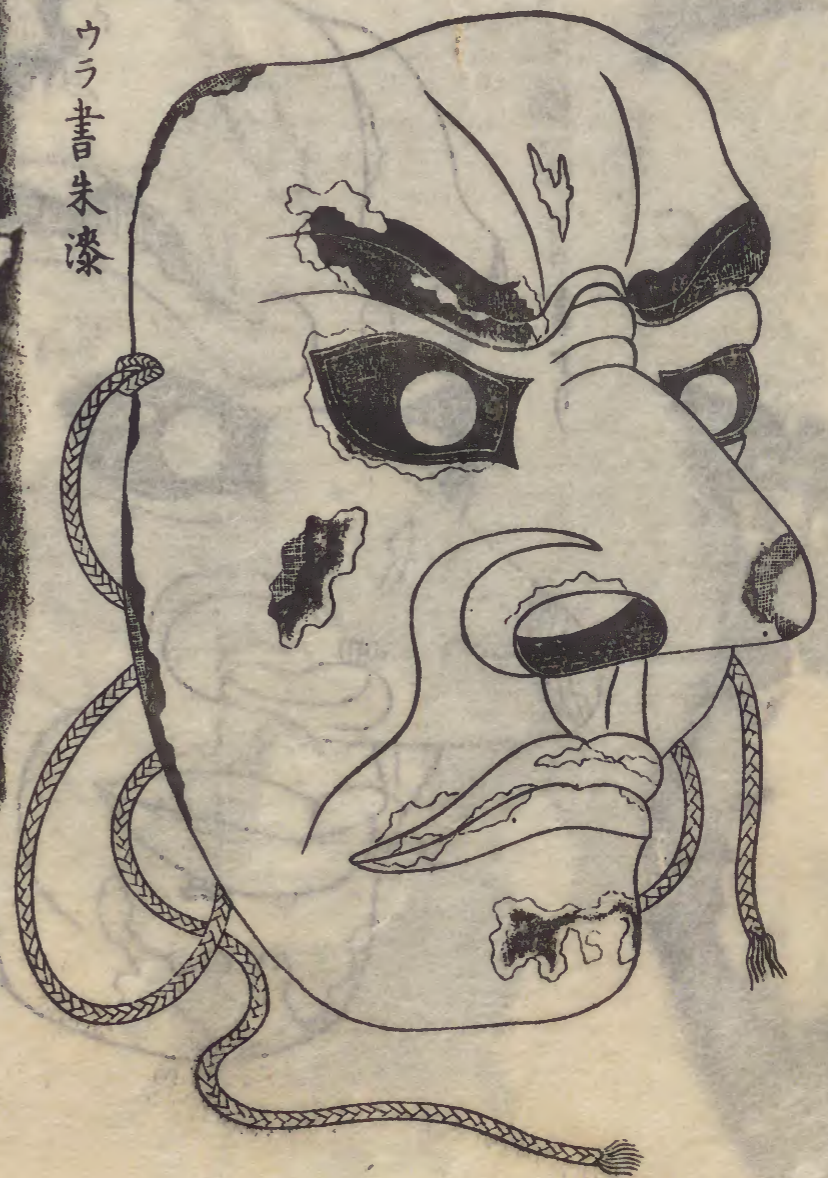
面

十八日

貴徳

面胡粉
眼中ク
口唇朱
古色
詳ナ
ラズ
堅七
寸三
分ヨコ
紐付五
寸四分

裏黒ヌリウラ書朱漆



伴津俊鳩社 貴徳面

永享三年八月

六ノ九

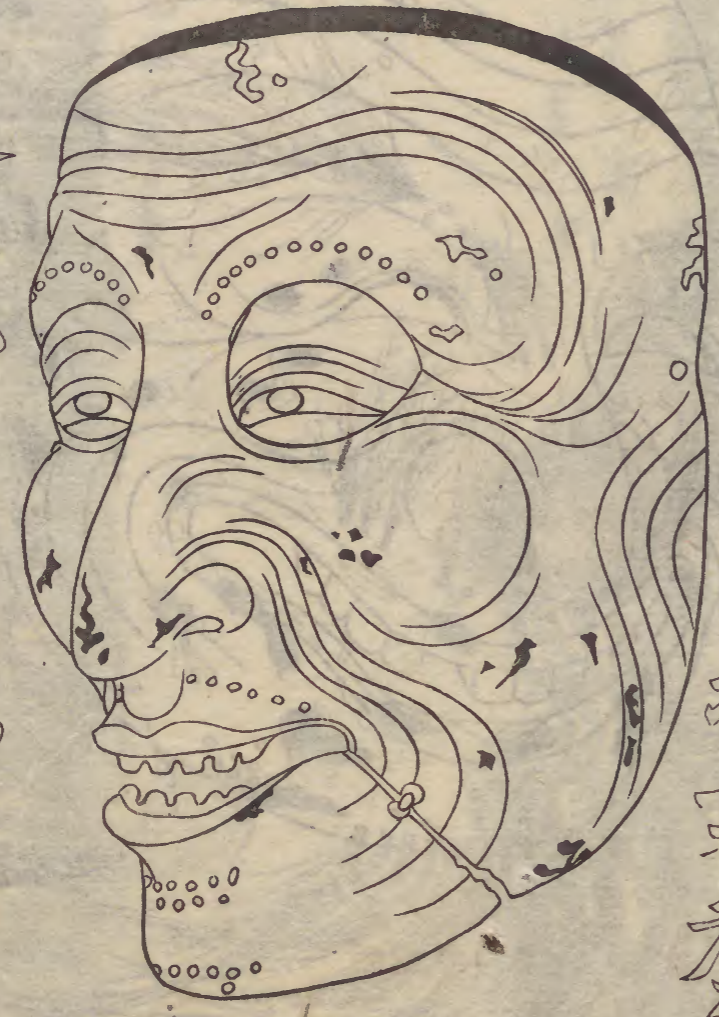
採葉老

面白肉
雲母ノ
艶ヲト
ル
眼中白
唇朱甚タ
アラク塗タ
リ堅長七
寸ヨコ五寸

ウラ黒ヌリ赤
漆ヲ以テ裏ガ
キアリ

伴都伎鳩社

採葉老面



達長元年九月十四日

伴都伎鳩社 採葉老面

二ノ舞

面古色ニシテ

、詳ナラズ

毛白ニク

、

、

、

交セ
夕リ
八
寸六
分ヨコ
細付ニ
テ六寸四分



嚴島社ニ舞面承安三年八月日

ニノ舞ノ面直タメ塗
赤漆ヲ以テウラ書アリ

盛國朝臣調進

下ニ圖シタル面ノウラ書

嚴島社ニ舞面承安三年八月日

盛國朝臣調進

面赤漆眼黒
漆ノゴトシ

翌七寸ヨ
コ細付ニ
テ五寸一
分
裏クロヌ
リ



此面四ツ下當社ニテハ今胡徳樂ニ
用レテソノ實ハ未詳

二ノ舞

面古色ニシテ
詳ナラス豎一
尺ヨコ細付ニテ七寸



六十一

高 叢

洞金地極彩色
皮金地古色ニシテ詳ナラズ



中ノリ

金

スベテ長サ一尺
二寸九分



奚婁

柄ノアリ五寸五分

柄上下三十竹ナリ

胴中ノ廻リ二尺三寸九分
高廿六寸五分皮厚リ
四寸五分強ニ方
ヤフレナリ
緒ムラサキ



高倉天皇御笙

笙大サ面ノ如シ

天皇ノ愛翫シタメハリモノ

ニテ小櫻トイフ名物ナリ

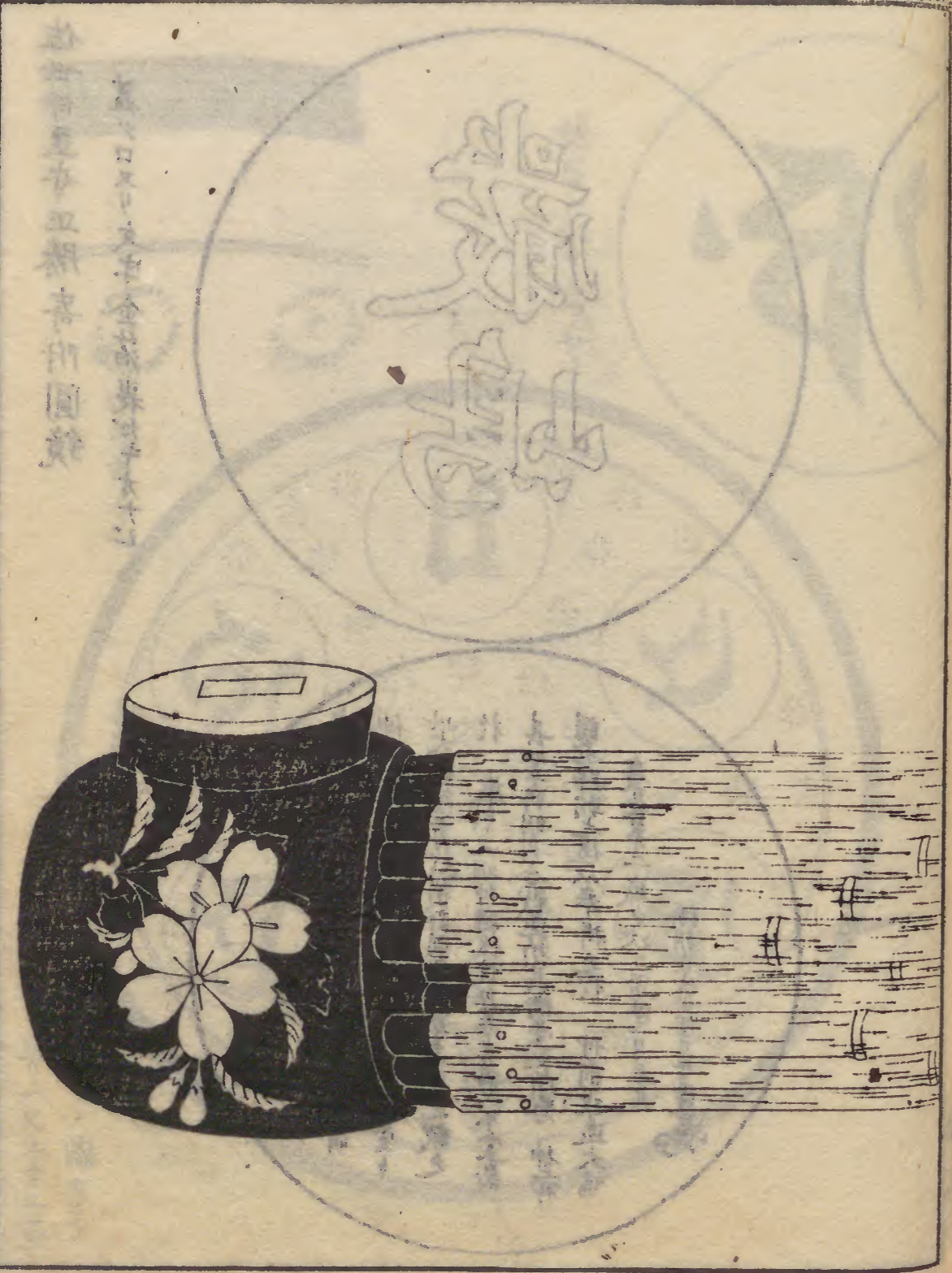
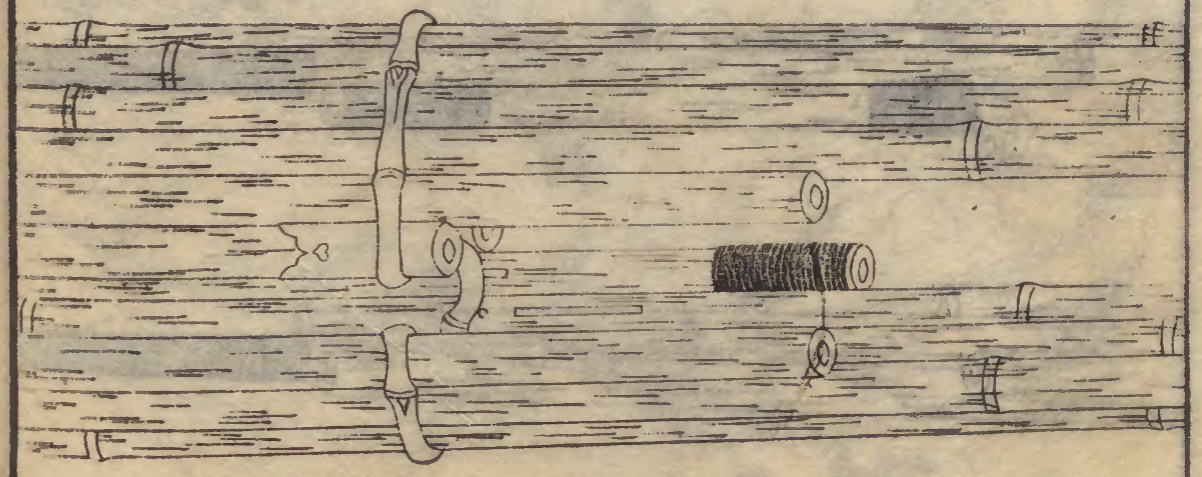
治承四年御幸ノ時神庫

ニ藏メタメハリトゾ

艶黒漆サクラノ画兼

金粉花銀ノウスガ子

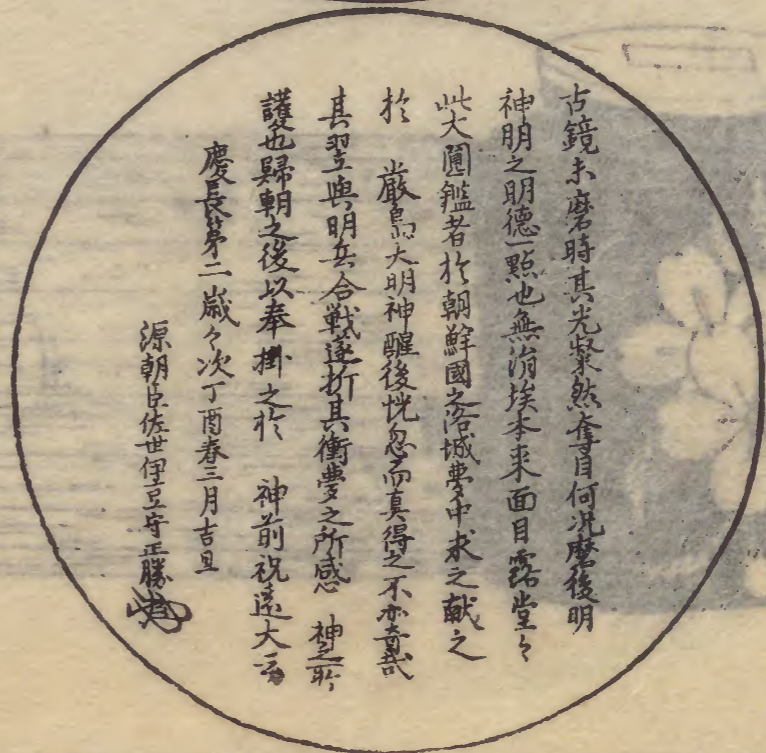
簧銀



高倉天皇御笙
治承四年御幸ノ時神庫
ニ藏メタメハリトゾ

佐世伊豆守正勝寄附圓鏡

蓋ク口ヌリ文字金箔裏ガキオナジ



古鏡未磨時其光蒙然奪目何況磨後明
 神明之明德一照也無消埃末末面目露堂々
 此大圓鑑若於朝鮮國洛城夢中求之獻之
 於 嚴島大明神醒後恍忽而真得之不亦喜哉
 其聖典明兵合戰連折其衝豐之所感 神聖
 護也歸朝之後以奉掛之於 神前祝遠大焉
 慶長第二歲々次丁酉春三月吉旦

源朝臣佐世伊豆守正勝



梵字ノ大卍番ノ如シ

地文番ノゴ
トシ



鏡ノウラノ圖カクノ
如シ耳一尺二寸三歩

音磁之塔

夕カ廿一尺一寸上ノ且リ四寸一步下ノ且リ四寸五歩



大願寺什物鐘

豎一尺二寸八歩且リ七寸
三歩縁厚サ七歩五リ



大願寺什物八景鐘五分風

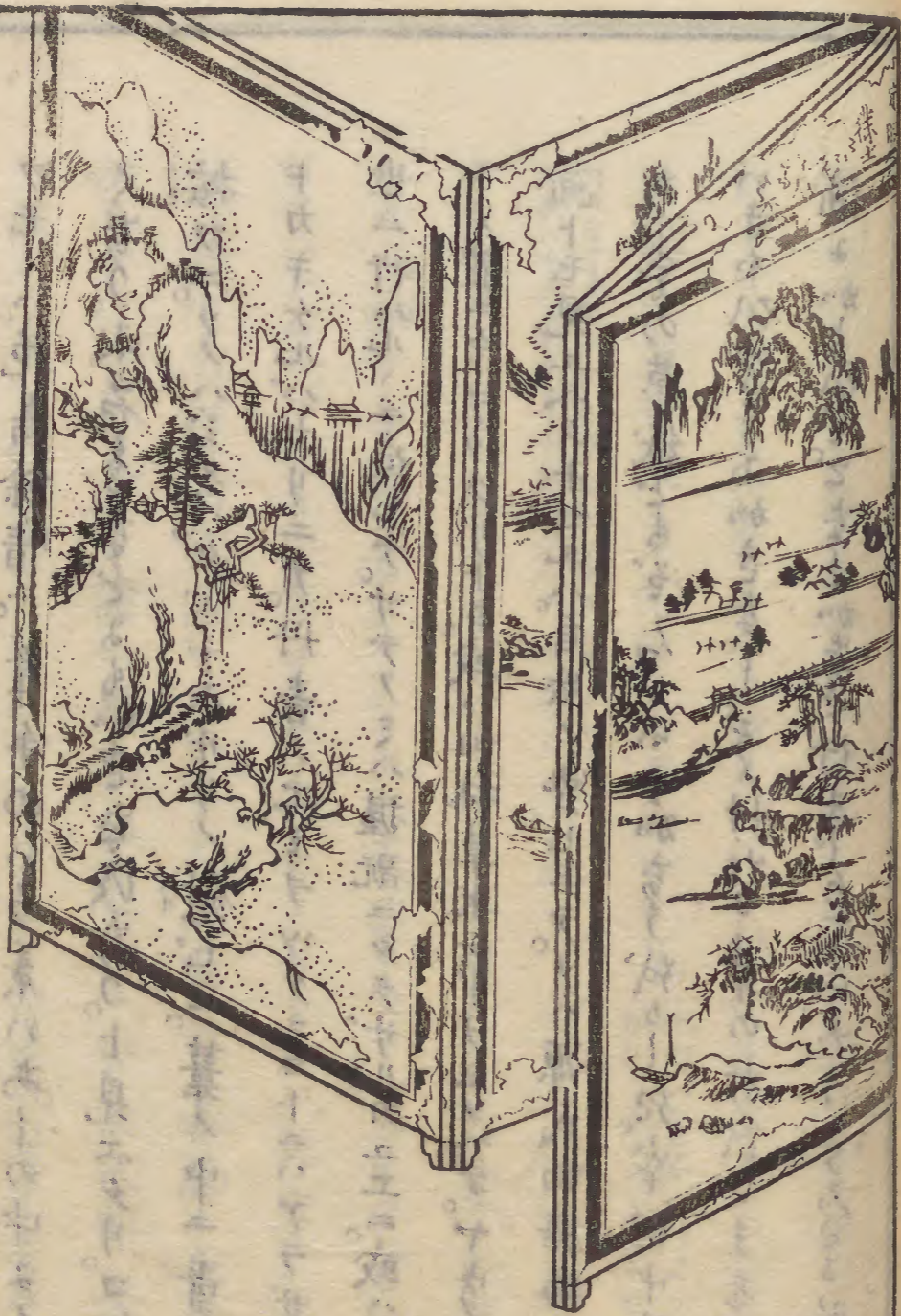
元曉卷下鐘

大願寺什物八景野立屏風

八枚折高サ三尺四寸六歩幅一尺八寸七歩厚サ四歩足七歩
 墨画ノ山水白高麗帟ニカケリ蝶番藍麻布ヲキヒタリ木口モスベテ同ジ背兩
 端ノ折ハ藍漆ノ高ライ帟文蓮花カラ草番ノ如ニスベテハ書マタ番ノ如シ表ヘリ
 小ヘリ赤大縁ア平漆トモニ高ライ帟但シ小ヘリ大ヘリノアハ白帟細金



浦地頭東之末之地寝大尺の對面種酒有
 都通宣末 諸張金
 十五日阿舟之衆人
 出合登酒迄有
 接待廿二日永
 安東廿七日
 二日忠訓
 廿七日九
 十三



二大願寺尊海師大正藏經の得ニカ多渡韓時請得ア獲ヘ
 歸之ニ所ニテ同師彼地ニテノ日記ヲ其裏ニシテニタリ八景野立
 屏風トイフ名義詳ナラス

葦手考

下ニ載スルトコロノ繪扇ノ画ヲ葦手書ト称ズ。コノ葦手トイ
フモノハ。花鳥餘情ニ。葦手のいろ葉ハあーの中よ文字紙々
くあり。水石多きなどよもかきなひあり。ト見エタリ。コレニヨリテ
按フニ。ソノハジメハ。夕バノホザリノ慰^{スサ}ビニ。葦ノ中ニ哥ノ文字十
ドカキケルバカリニテ。丹青ノエミヲツクスコトニハアラザリツラメト。
世ニ行ハル、ニ從ヒテ。サテノミハ握翫ニタラサルガユエニ。或ハ水石鳥十
ドノ體ニ字ヲツクリナシ。或ハ山林草木ナドノモソヘテ。ヤウクマコトノ
画トモ見ユベクナセルハ。自然ノ勢ヒニテ。ソハ源氏物語梅ヶ元ノ卷ニ。
あーどの草紙どもぞんくふをかちう紙くした。宰相、中將のハ水の
いきわひゆこふかきなり。そけたる葦の枝ひざまなど。難波の
浦よかよひて。こちうかちう行まどりていたうまみさる所あり。また

いとわが免りうひまかへて。文字やう石などのたをまひ。このまかき
たまへるひもあえり。免も枝よむ。これいとまゆりぬべきもの。那
と奥一免でたまふ。トアルニテ知レタリ。水のいきわひゆこふ。夕葦の
かきまひ。トアルヲ以テ。水石草ナドノ
カタハラニ。字ヲガキクヘタルヲ知シ。サハアレドモ。コレ更ニ六法ノ規ヲタ
ガシテ。カタクワサニモアラズ。サレバ。コハナニガミノ公達。クレガシノ姫君
ナドノ。画ノ手習ニシタマフコトニテ。葦手トシモイフハ。コノ手習。葦
ヨリハシムルユエナリ。葦ヲハジメニナラヒソムルハ。文字ノ手習ヲ難
波津ナイフニヨセテ。画ノカタクワソノ難波ノ景物ナル葦ヲ取出
タルニソアルベキ。ソノ證ハ。塵添塩囊抄ニ。和泉式部。筆もちびゆ
がみもの。かみゆいこれやなよもの。あーど。ちうり。葦。續世継
物語ニ。大僧正行慶中畧。天王寺へまうでたまひるふ。あよま。紙
まねたまふとて。ゆふぐはなよまをさまうり。紙。波をむたぐう。紙

のありてなりたりとなんたるえ。ことごときのゆふべの望より
も。なまはのありてと見えん。げよとつえたり。うへる層のう返墨。
夕暮のありてななりたるもやさしくたるえたり。壬二集。夕
路。まなまを紙うけて見え。さむ波のいろをのありてあうけり。
拾玉集。ゆふまされなまをさるやう城ゆくうやありてのまへか
る玉づさだ見エタリ。イヅコカ葦ノ生ヒサル浦アラム。然ルヲミ
ナカク。葦手ヲバ難波ニノミヨセタルニテモ。字ノ手習ニムカヘ
テ。画ノ手習ニセシモノナルヲ知ベシ。カグテ後ソノ手習ニセシ葦
手ノ風流ナル趣ノアルヲ以テ。種々ノモノ、文様ニモ十セリ。ソハ
逍遙院實隆公ノ五月雨の記ニ。香包ノ繪ニ葦手アリテ。愚舟隨
筆ニコレハありひきの山さうろ戸城あうたきてこがまつ人をこれ
うとむる。トイフ哥ヲアシテニカキタルナリ。トイヘリ。マタ中右記ニ

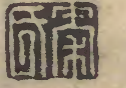
御堂御劔安志天蒔繪ノ細劔。マタ飾抄ニ從殿賜葦手劔平緒ニ
筋ナドアルハ。劔ノ鞘ノ蒔繪ナリ。台記ニ。入道殿御劔中畧平緒同
葦手也。件平緒鷹司殿自身付繪テエ。マタ園大曆ニ。平緒文葦手。
ナドアルハ。平緒ノ文ナリ。衣服ニカケルハ中務集ニ。ひいなの裳あ
して小て。まゝ波よそひてぎ煉いたちぬ。まゝたそのありも
そよとのちを蒔。トアルナド。ソノ外ニモ十ホイト多カルベケレド
トハオモヒイデズ。スナハチコノ檜扇ノ葦手ナドモ同シタグヒナリ。
コノ葦手ノ画ハ。表ハ。ちる梅の色も白ひもそひつるふなとかとつる人
ハなうん。裏ハ。子日を冨中をそぢちてみどりなるさが野の小松
かまみをなびく。トイフニ首ナリ。サルハコノ画ノコトハ。棚守元貞翁が
考ヘテカケルモノアルヲ。今文ヲ省キ義ヲ摘テ。コニ註シテ好喜
ノ士ノ願ヲ解クモノナリ。

平家物語奈須与市
 扇の的の糸子ノ柳
 此扇といふハ故
 高倉院嚴島御幸の
 時三十本きり立明神
 神郷あり紅日丸の
 扇之平家都落
 時神主佐伯景弘此扇
 を取出これハ帝の御施
 入明神の御秘藏日ハ
 故院の御情帝業の御
 守た急此扇を持た
 まひたを敵の矢ハつて
 其身はあさりゆとて祝
 言一まおせとてふくと
 見えたりたもふ今宝庫
 見
 高倉院の御扇といふもの
 あれとかの日の丸の扇と
 あらまはしことせむもの
 さればとい別御神納



ありしもの傳りれ
 ちる一其面を次
 あけられハ併考ふべ

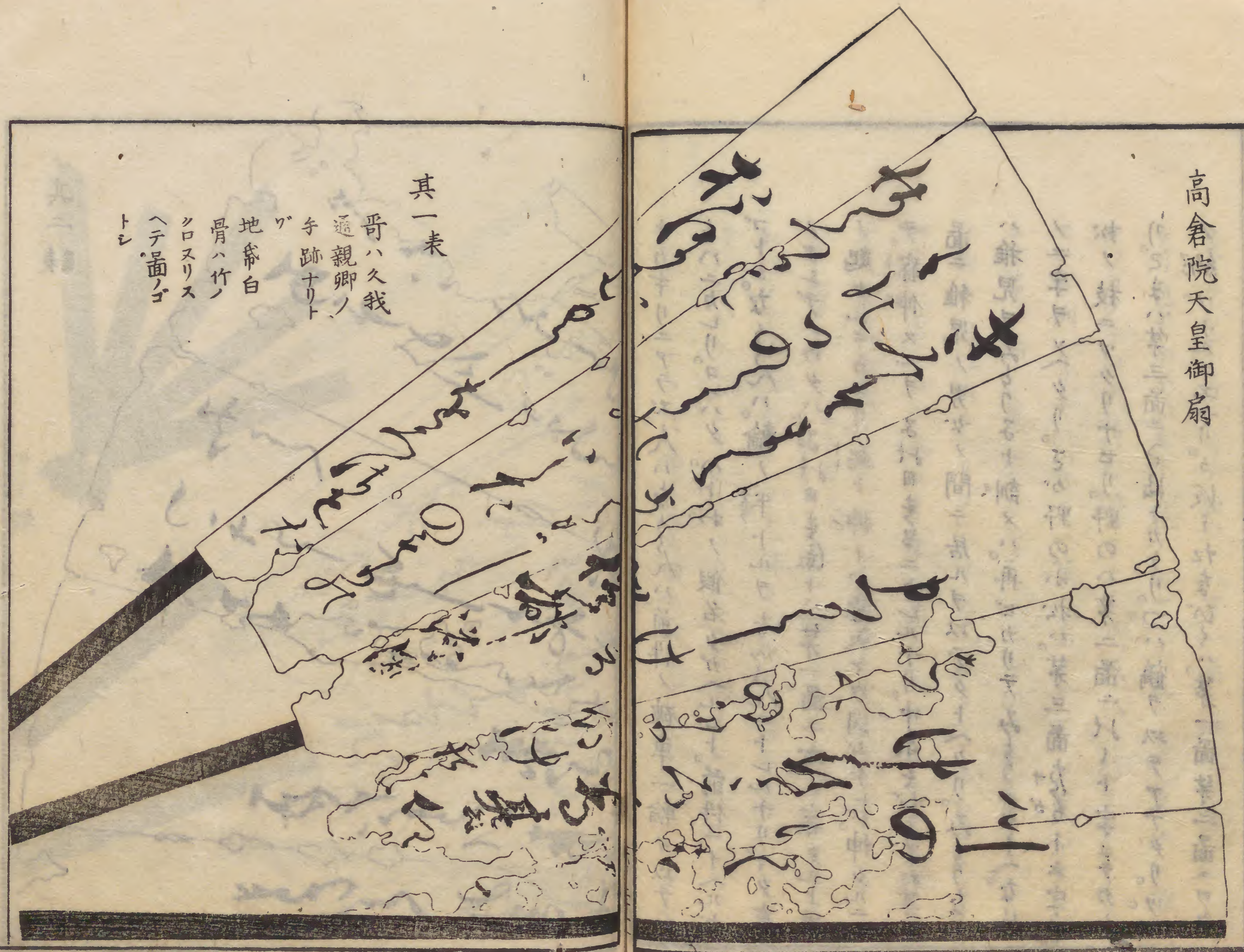


松葉齋秦陰恒筆


表ノアシデノウタ。ちる梅のトハ。第一面ニ梅花ノ落タルヲカ
ケリ。色もふちひもトハ。花ノ紅ナルヲ色ニトリ。薫炉ニ煙ノ
タツカタヲ以テ。枝もひニアテタリ。思ひノひヲ火ニトリナ
スハ古例ナリ。そひつるまハ。第二面ニ今ヒトツ薫炉ノアル
コレ第一面ノ薫炉ニソヒタルユエ。そひノモジニアテ。つるふ
ハ即チ鶴ニ羽タテリ。コレナリ。なとかとらるハ。なとかとノ
四言ハ。字ヲ以テ画セリ。第二面ニあトヤウニミユル即チな
ナリ。第三面車ノウヘニカケルガトノ字ナリ。ハるハ車ヲ
以テ譬ヘタリ。以下車ヲ以テ車ノ輪半破レタルヲカケリ。コレ
あるナリ。訪るノハト破るノわトハ假名タガヘレド。當
時ステニウルハシキ文字ツカヒニスラ假名タガヒヨリくミ
エタリ。マシテコレハ画ノ譬喩ナレバ。サバカリノコトハトガムベ

キカギリニアラズ。人ハなるとんハ。前件ノ破車一輪ヲ以テヒ
トハニカレリ。コレハタハトわノ假名タガヘルコト。前件ニイヘルガ
ゴトシ。なるとんハ。輪ノ半ナルヲなるとんニトレルナリ。マタ裏
ノアシデノウタハ。ふじ日まゝトハ。第一面ニ女ノ寐タルト男
ノ起タルヲカケリ。起ト伸トハ意大ヤウ同ジケレバ。伸タルニシ
テ。寐伸スルヲふじ日まゝニカレルナリ。中ふそぢちてハ第二
面ニ稚児ノ男女ノ間ニ居ルヲ以テタトヘタリ。みとらなる
ハ稚児ヲみとら子ト訓メハ。再ビカリテみとらニタトヘな家
ノ二字ヲソヘタリ。さか野の小松ハ。第三面たがト云字ヲ
松ツ枝ニツクリナセリ。野のハ第二面ニ比シト字ニテカケ
リ。こまハ第三面ニこはトカケリ。つハ鶴ヲ以テアテタリ。ツル
ノ約ツナルユエナリ。うはなびくハ。第一面第二面ニワタ

高倉院天皇御扇



其一表

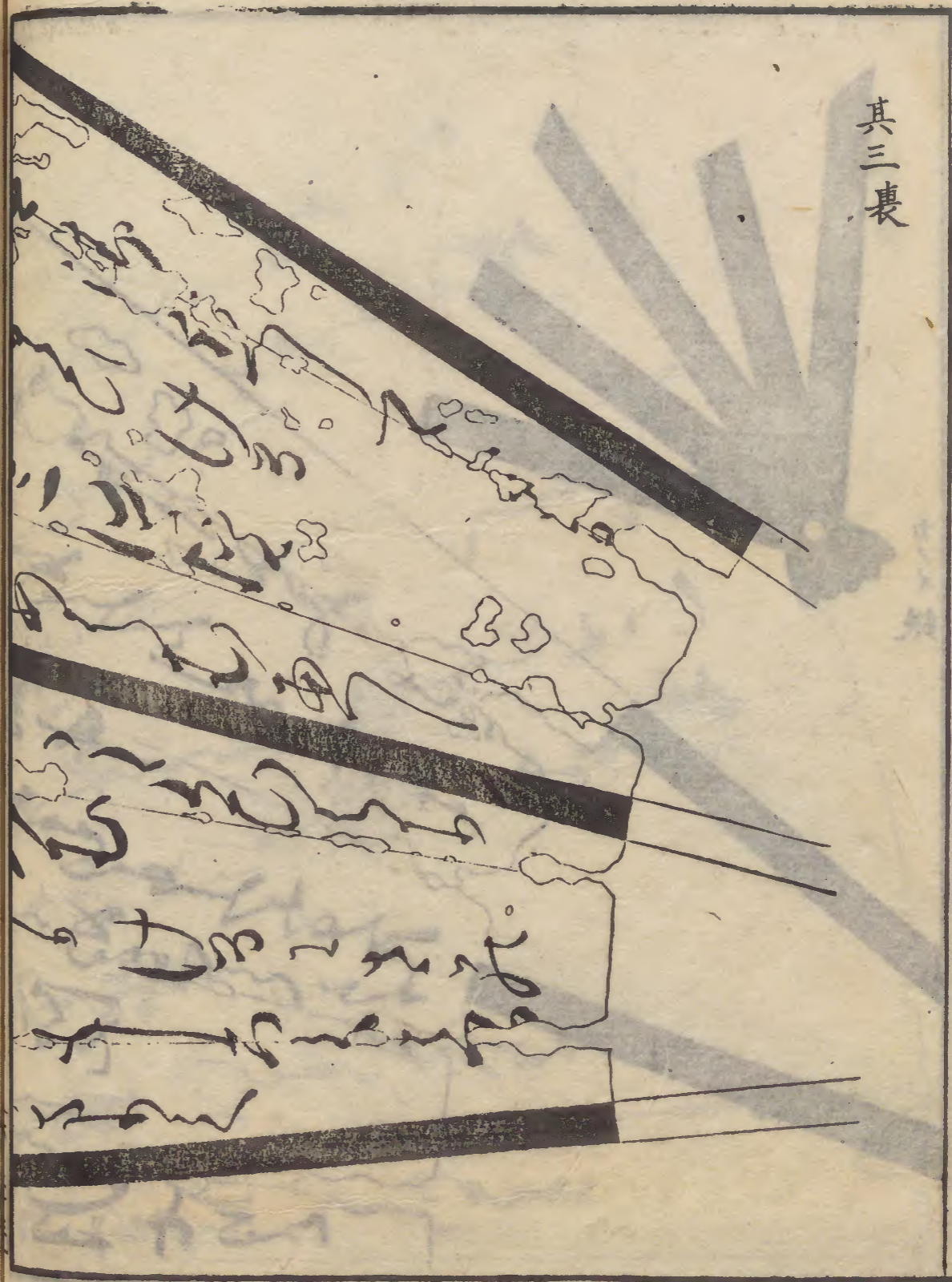
哥ハ久我
通親卿ノ
手跡ナリト
ガ
地帛白
骨ハ竹ノ
シロヌリス
ヘテ面ノゴ
トシ



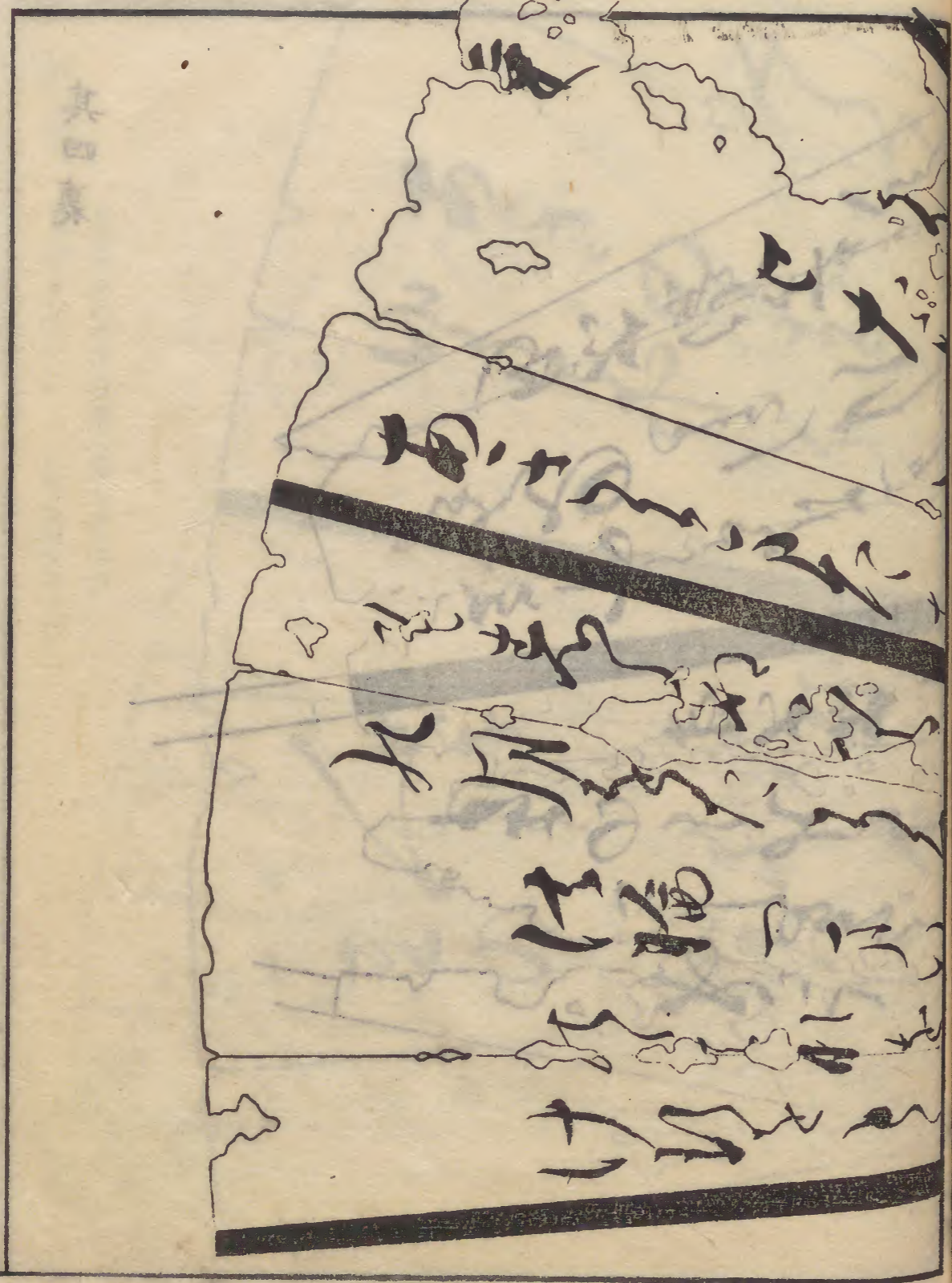
カノメ銀

其二表

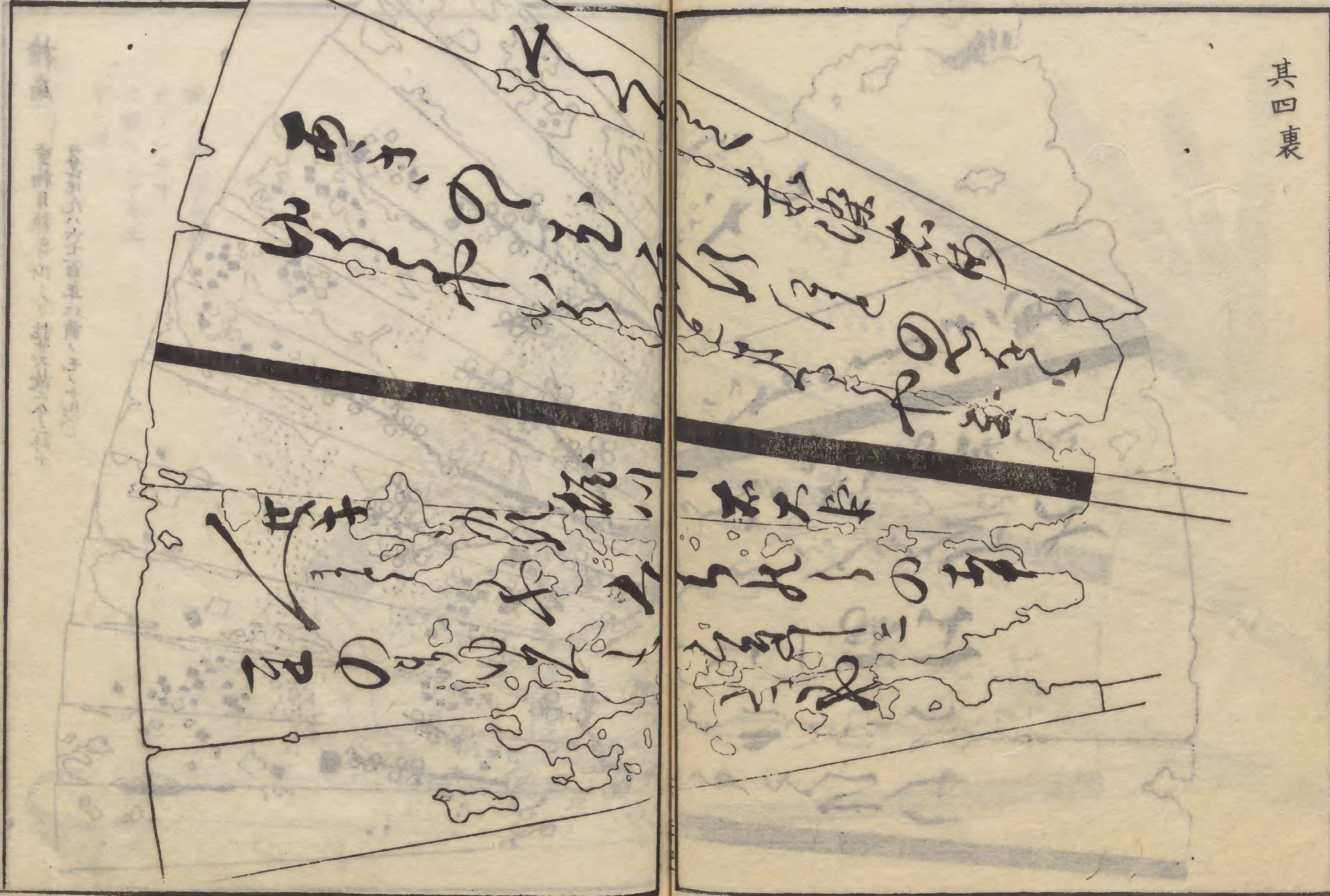
其三裏



其四裏



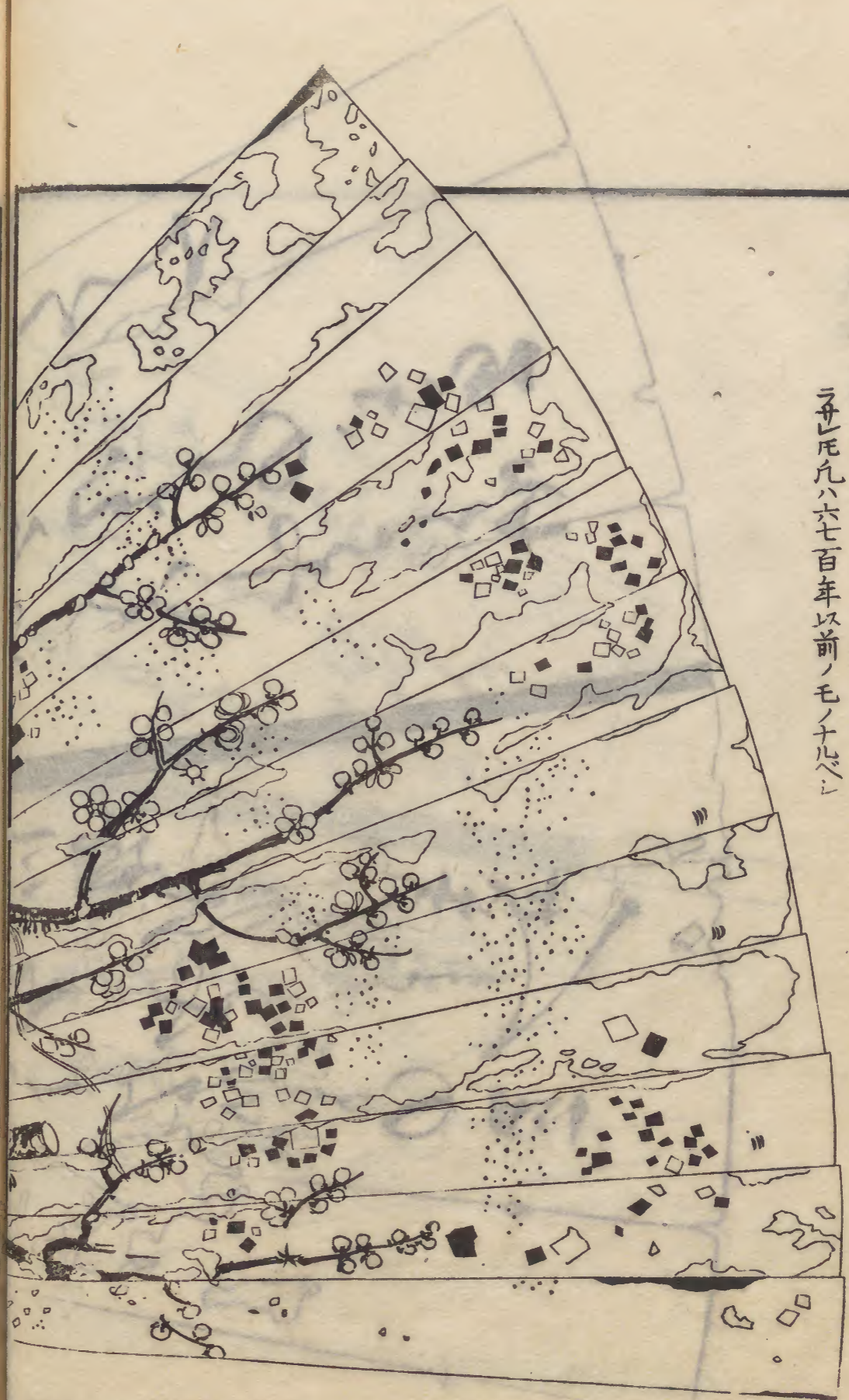
其四裏



其四裏
 皇朝御製
 皇朝御製
 皇朝御製

檜扇

室物目録寄附人ヲ註サズ故ニ今詳ナ
リナレ凡ハ六七百年以前ノモノナルベシ



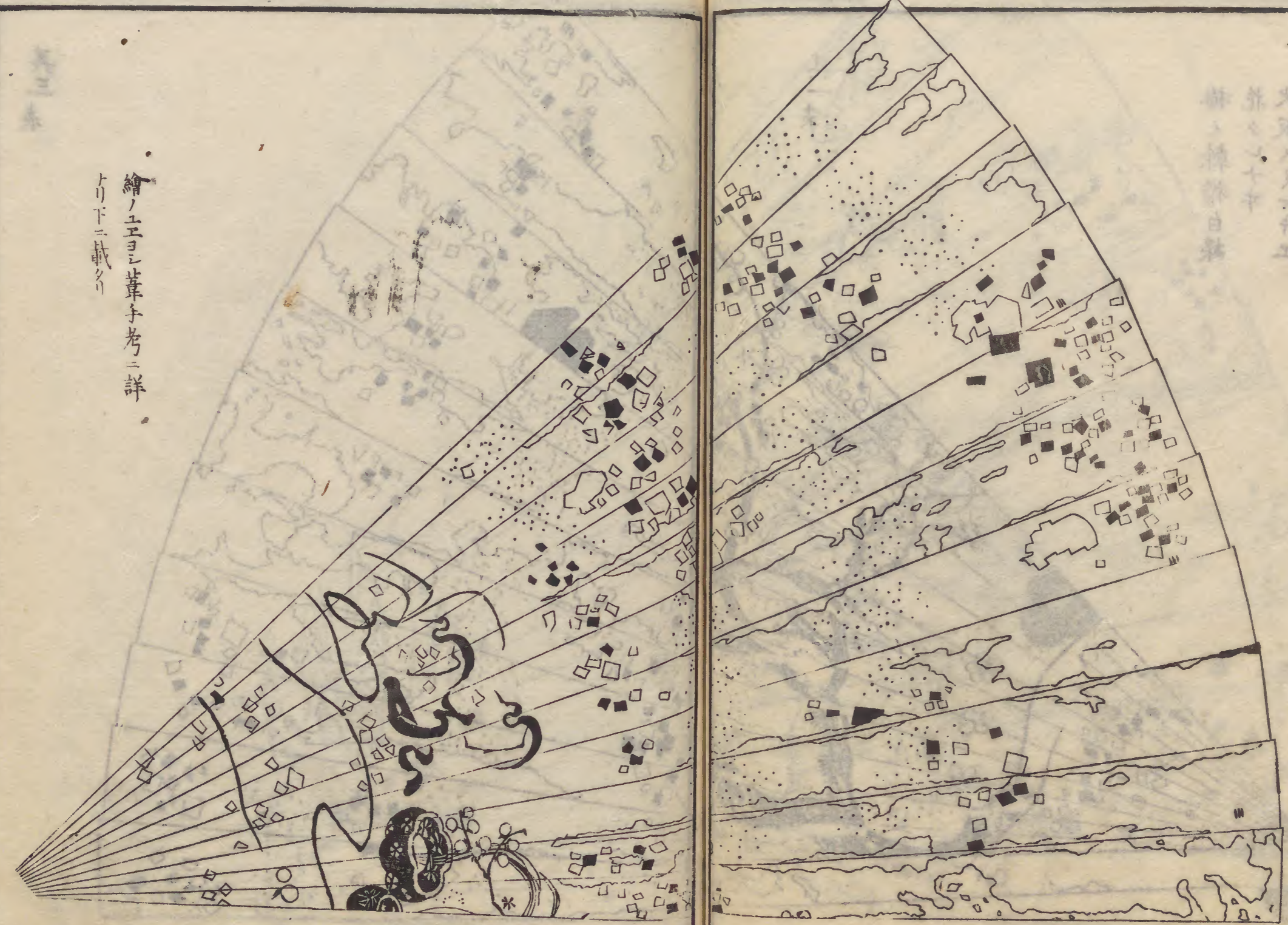
其一表

梅ノ幹標白緑
花クムナキ
火取スミマキ工
ギレ泥

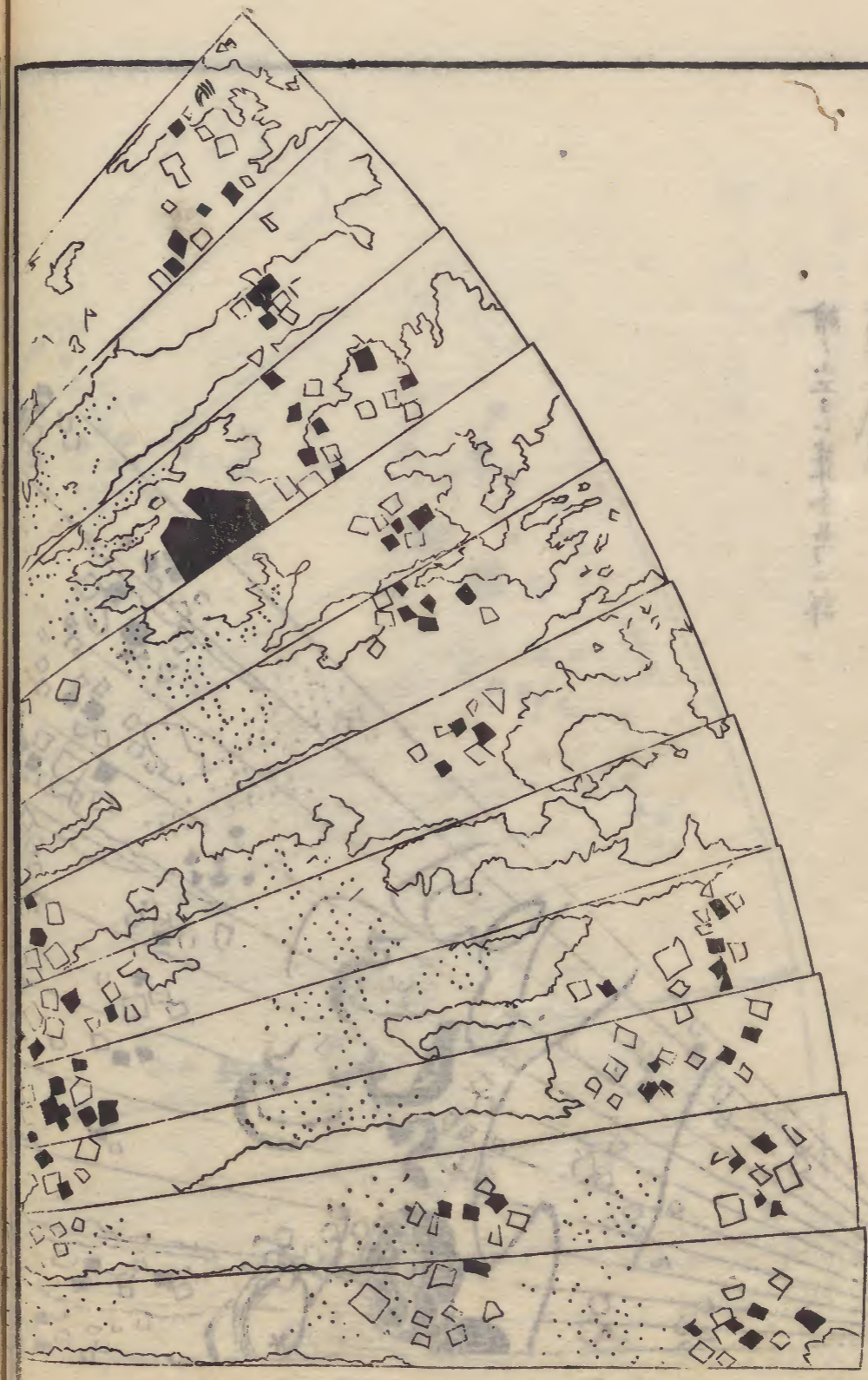
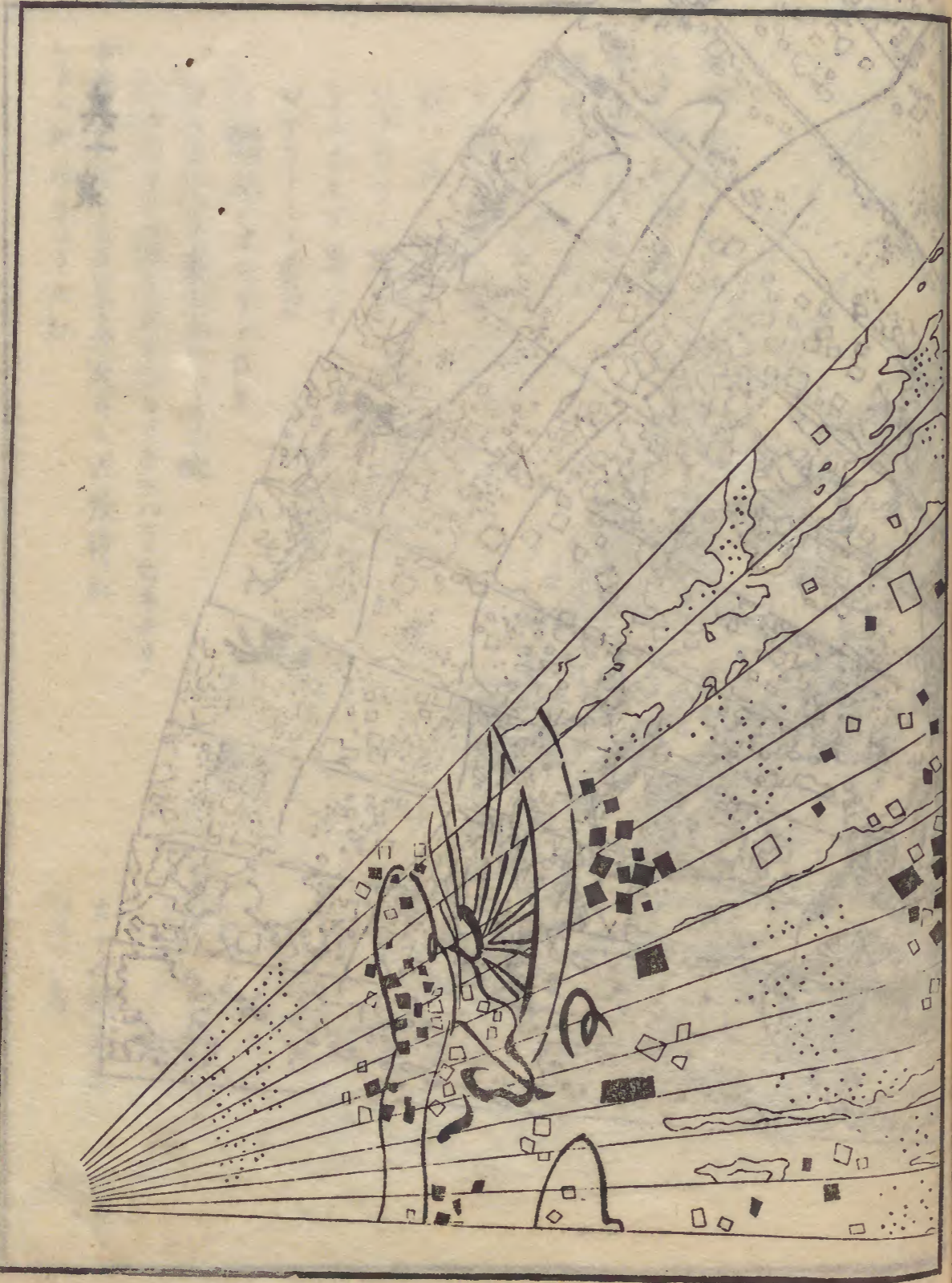


其二表

大正八年三月二十五日
并々々々々々々々
併々々々々々々々



繪ノ上ヨリ草子考ニ詳
上リ下ニ載ク



其三表

其一裏



公卿直衣クビガミ
ハタ袖白身薄縹
サシヌキ緋青モン
銀泥

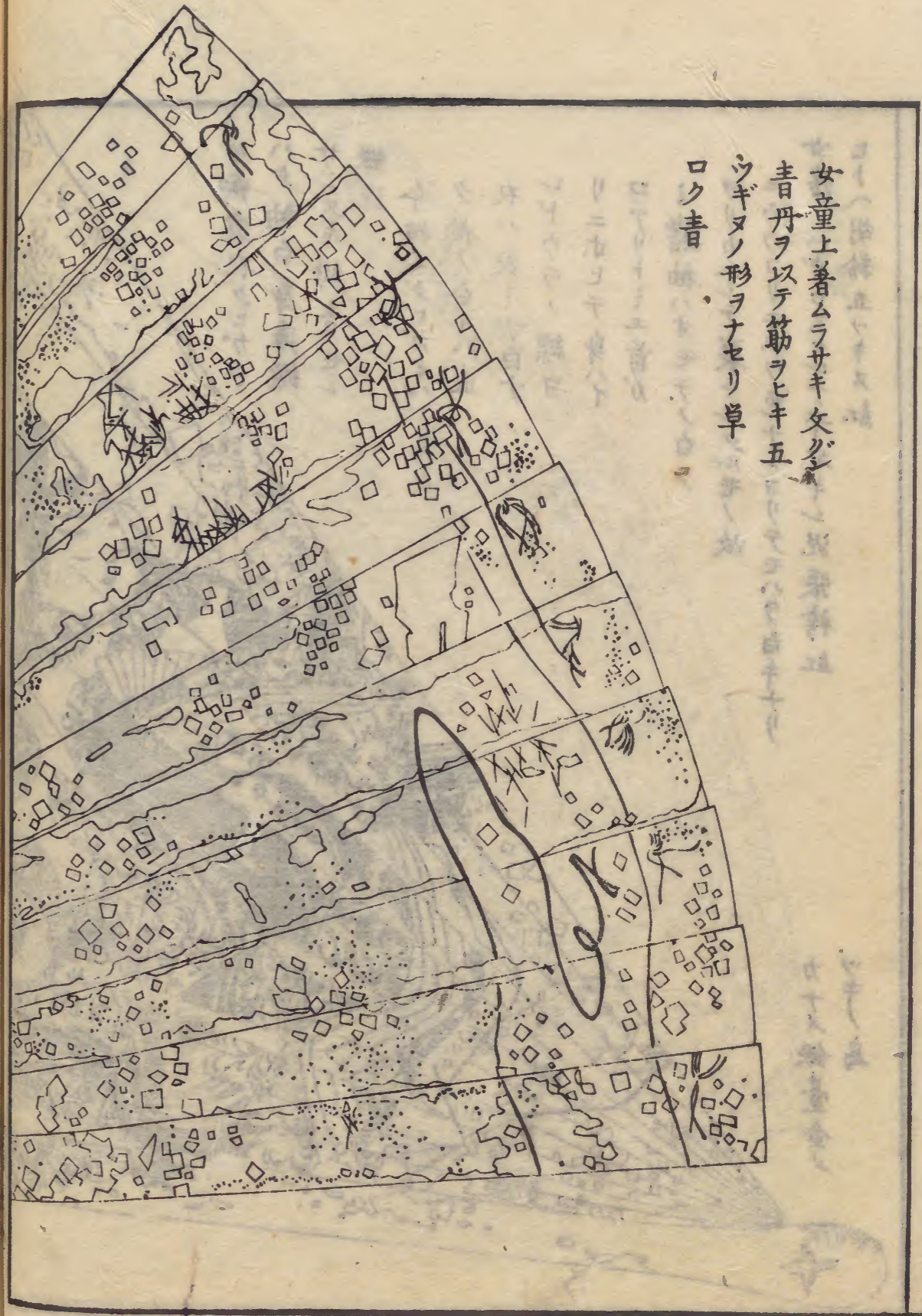
今按ニクビガミハ
夕袖ノ白キハ直
衣ハ表ミナ白ナ
レドウラノ縹ヨ
リニホヒテ身ハイ
ロアリトミエ首ガ
ミ 鱗袖ハオモテノ白ヲ
ヲリカヘシテ裏トシタルモノ故
ニウラヨリニホフ色ナシヨリテモハラ白キナリ
女房ウハギウスクレナ平父ギン泥張袴紅
ヒトへ胡粉五ツキヌ紅

カナメ銀墨金メ
ツキノ鳥



其二裏

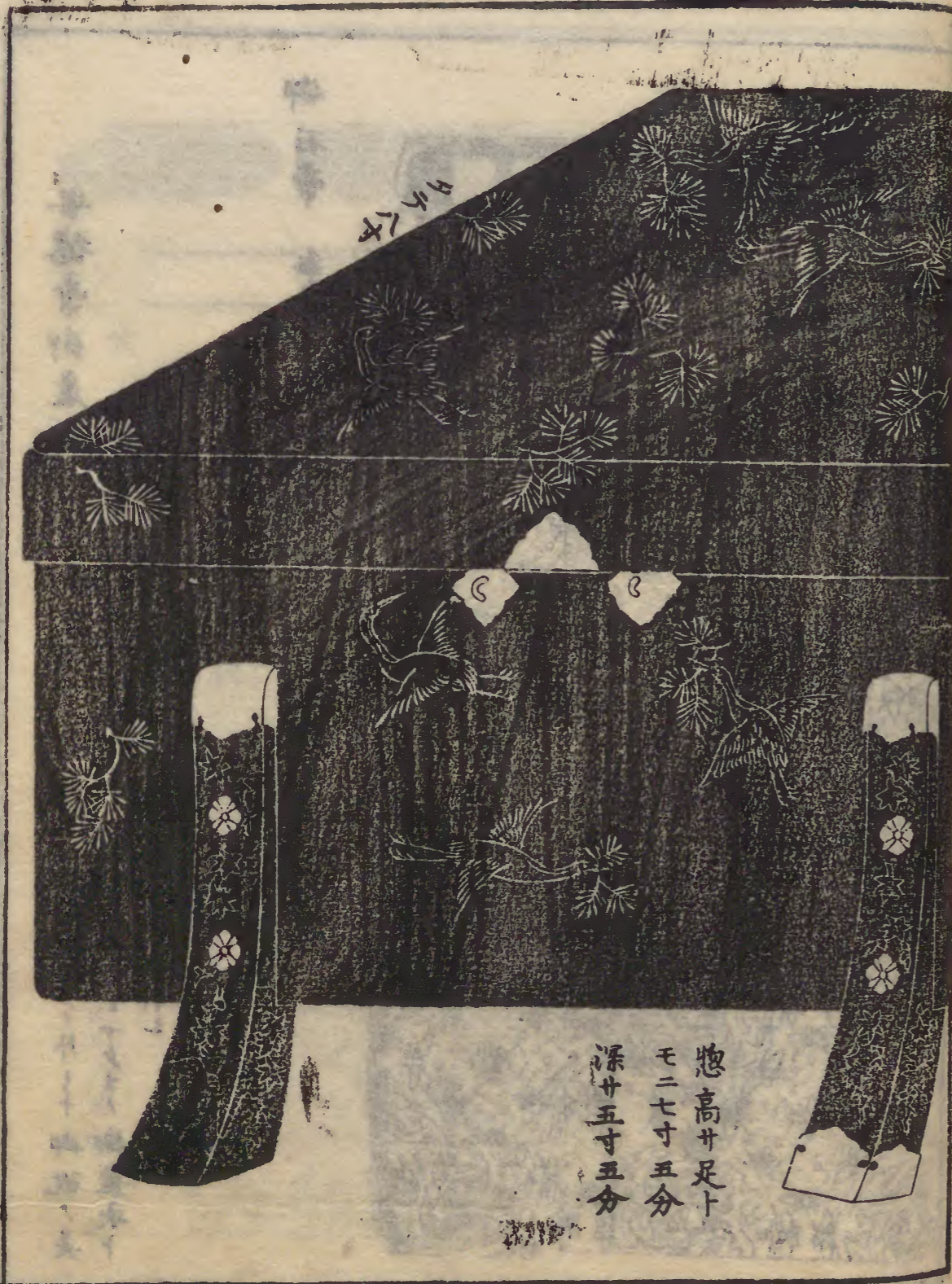
大石小石キン銀ノ
切カネ金ギンノ微
子ノ砂子



女童上着ムラサキ文ガ
青丹ヲ以テ筋ヲヒキ五
ツギヲノ形ヲナセリ草
ロク青



其三裏



片身

惣高廿足十
 毛二七寸五分
 深廿五寸五分



三尺五分

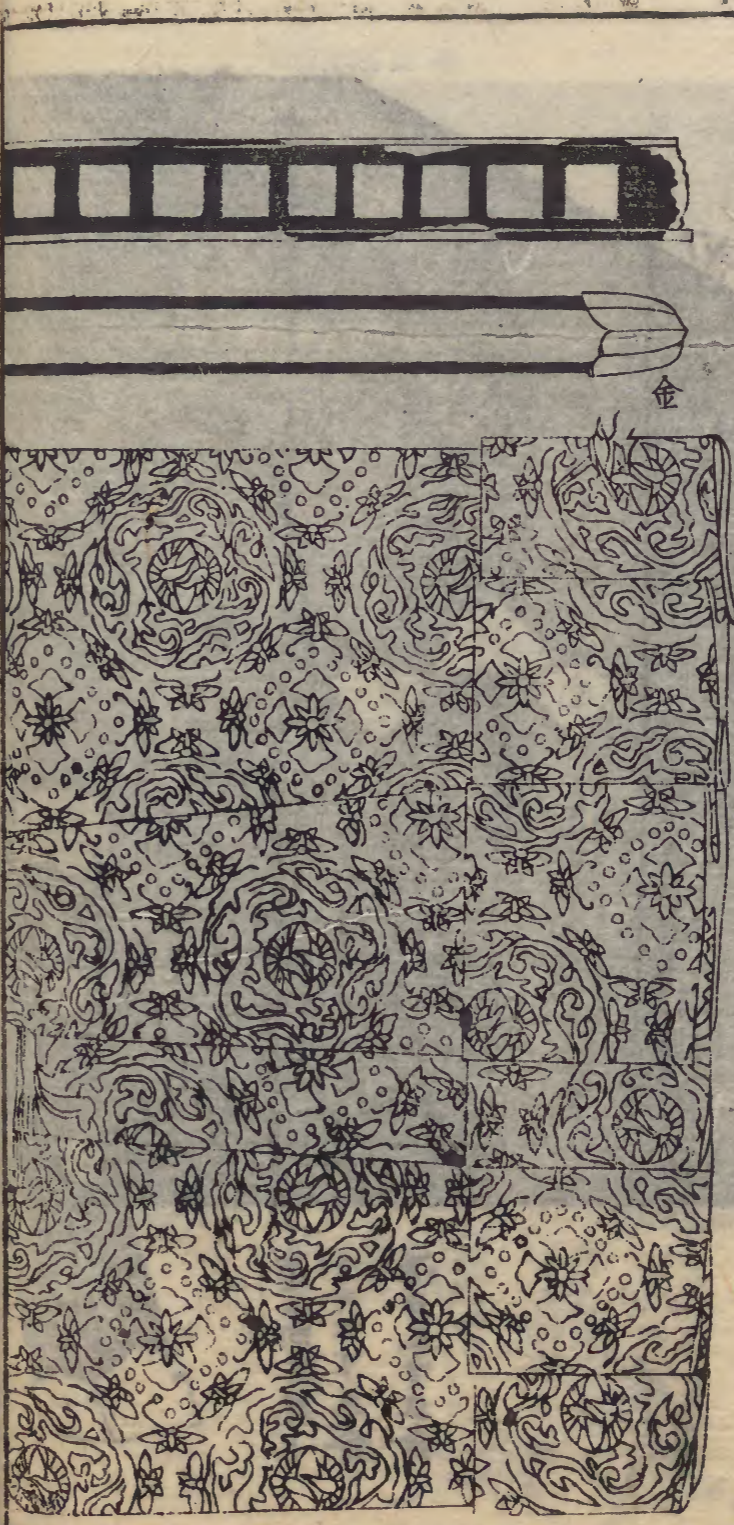
安徳帝御産着唐櫃

ツロ塗マキ繪鶴銀松金カト具金メッキ足螺鈿研出之

安徳帝御産衣

コノ御産衣ヲハジメ御太刀御石帯ソノ外ニナ御説ノ具
トニ工實ニ服御ニタマヘルニハアラサレヘニマシコノ御産衣ト
イフモノ、杖ヨ考ルニ御半臂ニヤトオホシ

御石帯 無文地方烏油皮ナリ

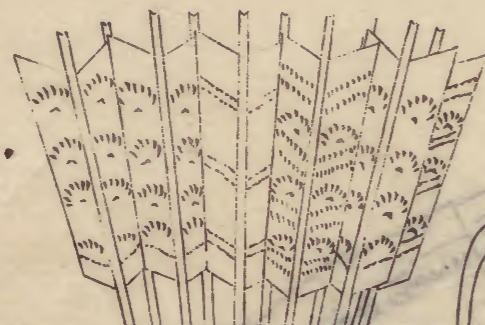


金



金

表ヤト錦裏紅麻損ジオホシ長ラレテ一尺二寸幅ソノ外
准ヘシルベシ



御箭
蒔繪面ノコ
トシ

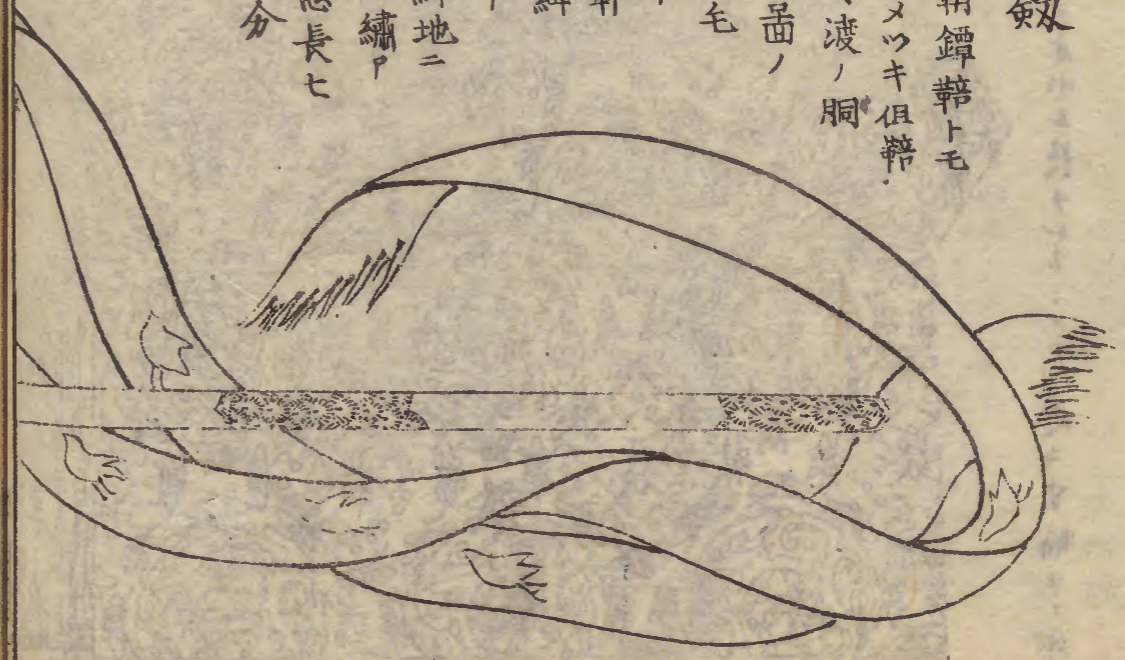


御箭

木箇ノ
トシ

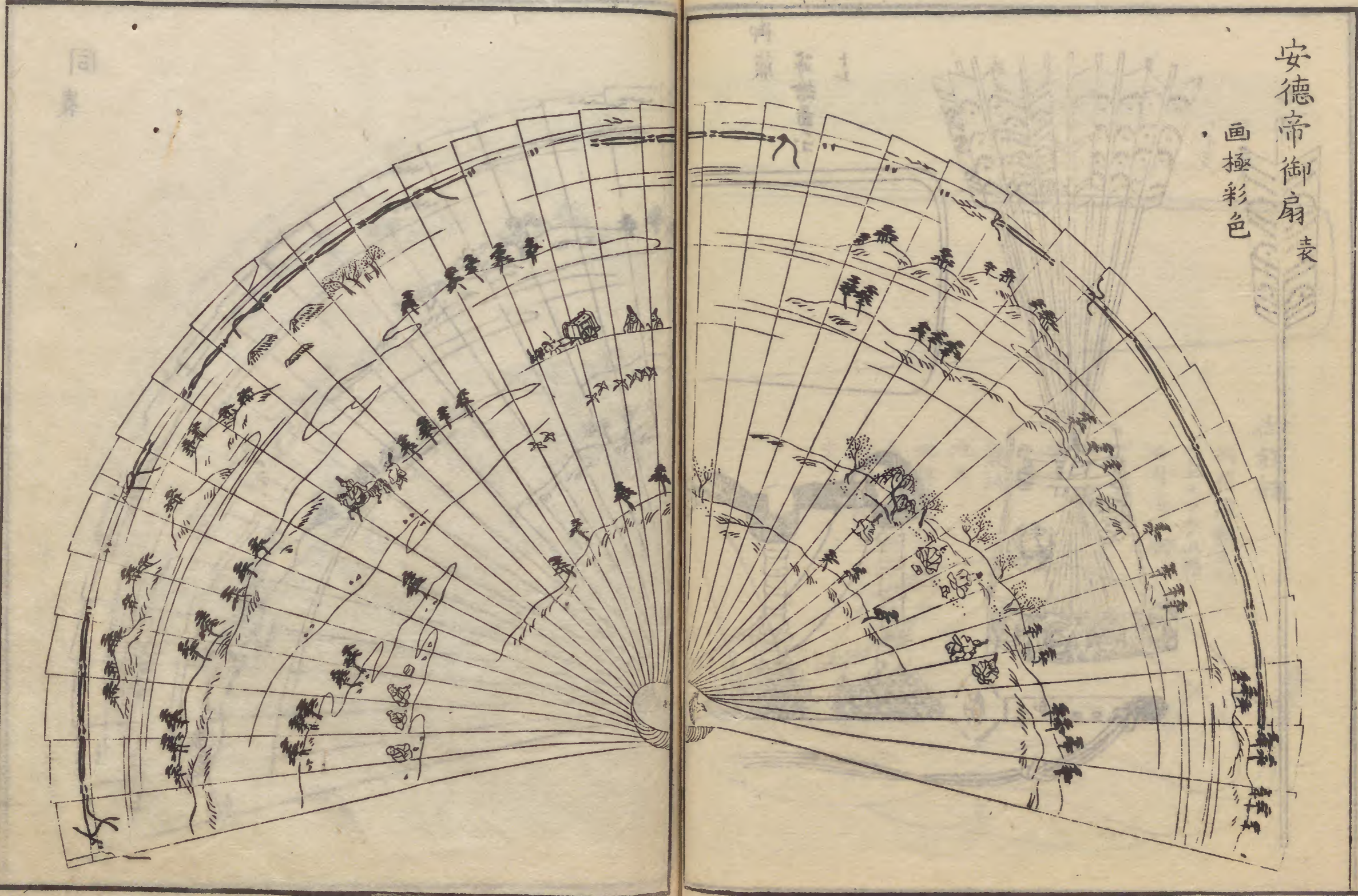
御劔

柄鞘鐔帯トモ
ニ金メツキ但帯
石付渡ノ胴
マキ箇ノ
如クモ
彫十
リ鞆
鞆絆
地平
緒緋地ニ
鳥ノ繡
リ惣長七
寸八分



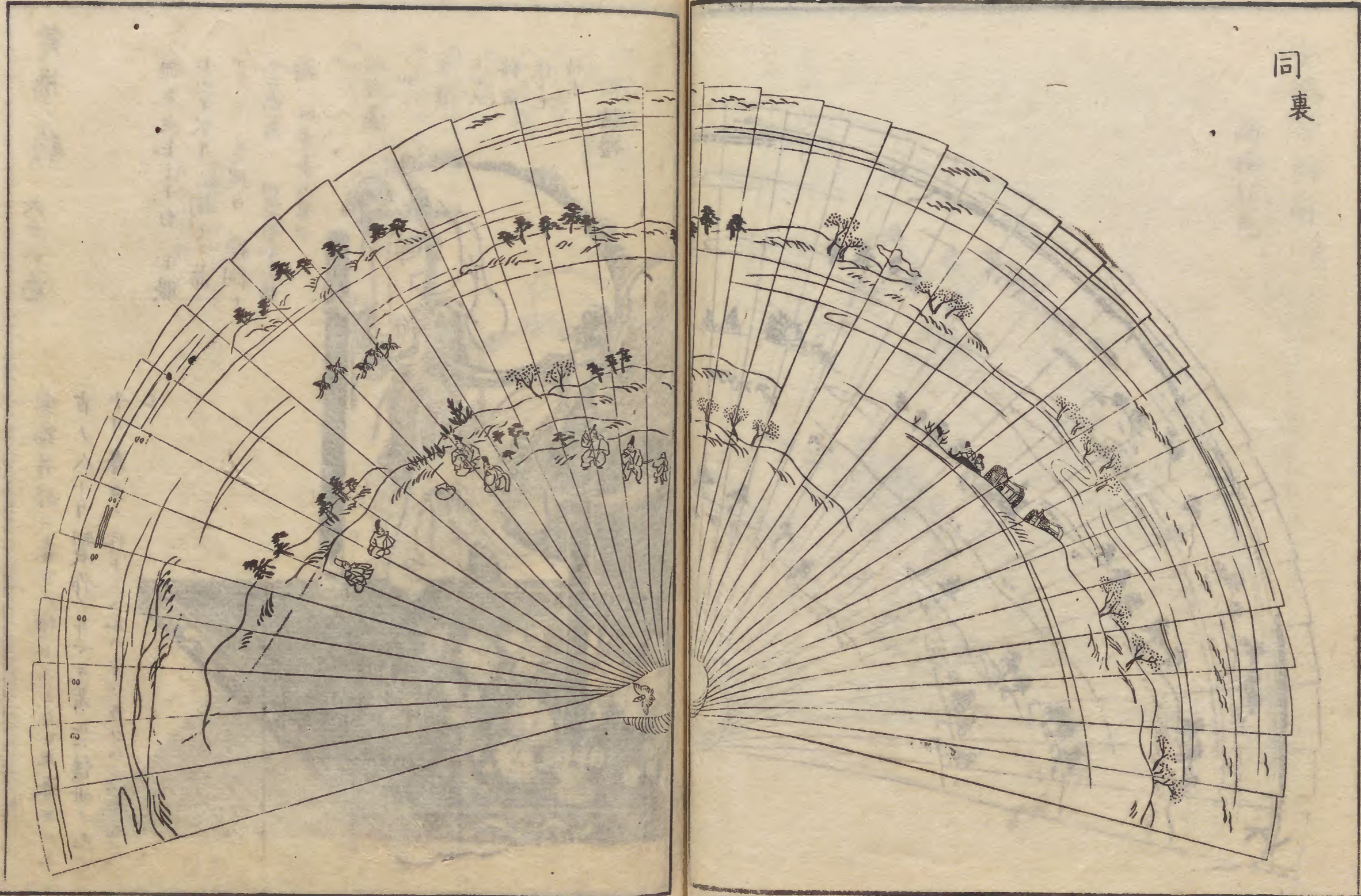
安德帝御扇表

画極彩色



同
裏

同裏



黄揚ノ駒

大サ如番

振毛玄毛ミ十白 玉眼

ヒツメ水牛 筒ギニ番ノ

ハトシ 危繩白 鞆朝ト

毛ニ赤糸 四方手ギレ前

輪ノ四方手ウセテ

ナシ

切付番

ノ如シ

生質

シビス

鞆前

後ト毛

柿木

ノ輪鞍襷



宝物月録ニ春日ノ作トスミカレ氏春日ハ上
古ノ人ナリ製作ノナマヲ考ルニ後世ノモノ
ナリ春日ノ作トイヘルハオソラクハ誤ナルベ
シ

アヤ

泥障柿色

ノ皮カ革

マツト錦

アフリ鉄ノ

ハビ色

腹帯ウセテナシ故ニ

由木カラミナリシヤ今

ハシレガタシ假ニヒモヲ

ウケタリ



其臺クハ又リ金マキエ
カナ物金メツキ

リテ。上ノカタニ霞ヲカケリ。サテソノ霞とノ字ヲ二ノ如ク
第一番ニツクリ。なノ字ヲ第二番ニカキ。長クヒキテなひ
くニアテタリ。

ソモく葦手ハカク字ヲマシヘテカク一種ノ画ナリ。シカル
ニ源氏物語ノ梅々元ノ卷ニ。あゝでうき繪を於もひくま
らけとのこまへバトアルニヨリテ。葦手ト歌繪トノケキメオホッ
カナクマギラハシキユエ。谷川士清ノ倭訓栞ニハ。歌繪ノコト
ヲ。あゝでとい少一異あるまやといヒ。富士谷御杖ノ北邊隨筆
ニハ。葦手ノコトヲ。歌繪のごとくもあゝといと持たせし
る。といヒテ。タドくシゲニ疑ヲ存セリ。畢竟。葦手ハ上件ニイ
ルガ如シ。歌繪ハ一首ノ歌ノ意ヲ画ニアラハシカクナリ。物語画
トテ世
ニ伊勢源氏ナドノ卷々ノ意ヲ画ガケルモノ
アリ。コレニ對シテオモフベシ。 別ノ子細ナシ。後撰集ニ

みちのくまへまかりくる人ふ。あふたてしして。うき急かたて。そ
れまつけてつかりくる。トアルスナハチコレトリ。タトへバ山家ノウ
タナレバ山家ノサマヲカキ。海路ノウタナレバ海路ノケシキヲ
カキテ。江山ノ翠藹。雲煙ノ濃淡。河水ノ細波。大海ノ驚濤。
ソノ趣意ヲスコシモタガヘズ。畫エガカサレバ。無声ノ詩トイフコト
ワリニカナハズ。サレバ葦手トハ。同日ニイフヘカラ又ムツカ
シキモノナレバ。繪所ノ上手ナラスハ。畫カキ得ベキコトカタカル
ベシ。シカルニ尺素往來ニ。假山水。海様。河様。泉様。遣水様。
巖井様。細谷川様。枯山水様。山秋。野秋。洲濱秋。葦手秋等。
トハアレド。歌繪様トナキヲ。疑フ人モアルベケレド。前件ニイフ
ガゴトクナレバ。歌繪ハウタニヨリテ。山水ニモ海ニモ河ニモ
泉ニモ山ニモ野ニモ何ニモカクモノユエ。一種ノ名目アルベキ

モノニアラズ。源氏ニうねるありてトアルハ。哥ノ意ヲモ画^エカ
ケ。葦手ヲモエガケ。トノ夕マヘルハカリニテ。うねるトありて
トフタツノ名目ノコトニアラズ。先達コ、ニ心ノツカサリシ
ユエ。ミナ正義ヲ得ザリシナルベシ。

田中芳樹

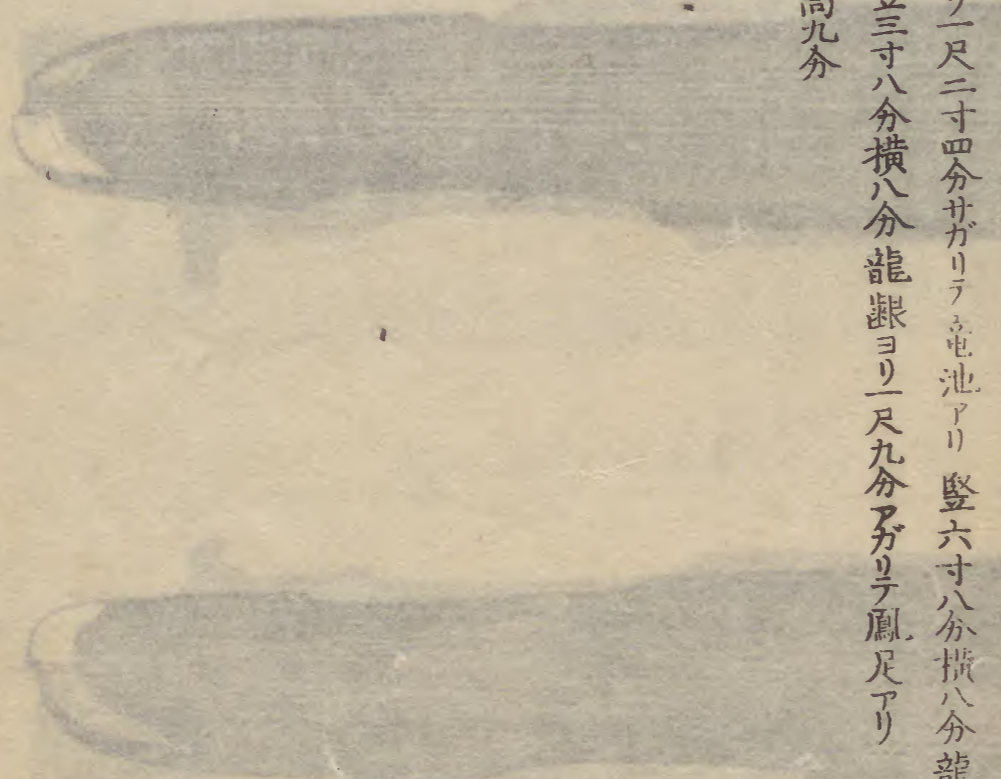
琴

社傳ニ平重衡ノ愛翫シタマヘル琴ナルヨシイヒツタフ。桐守房蹟記ニ法
花トイフ名物ノ琴ノコト見エタルハ。コレナルベシ。玉堂雜記ニ。嚴島
神庫ハ。重衡の琴藏まる。予。上卿市正といふ神家よて觀たり。六
七百年のもの。断紋ふりて。實ハ雷家などの製たるべし。平家の
時琴行つ。トイヘリ。コノ雷家ハ。唐ノ世ノ琴近ニ雷氏ナルモノア
リテ。代々ツノ名ヲ擅マ、ニセシヨリ。雷氏ノ製ナラテモ。断紋ナドア
ラハレテ。フルキモノヲハ。トモスレバ。雷琴トイフユエ。玉堂モカクイヘル
ナリ。サレハ。當社ノ琴。雷氏ノ製ニヤアラザルニヤハ。今知ラルベキニア

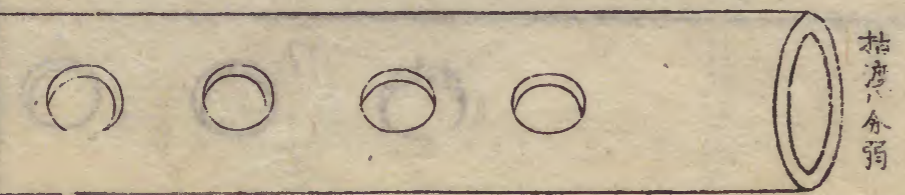
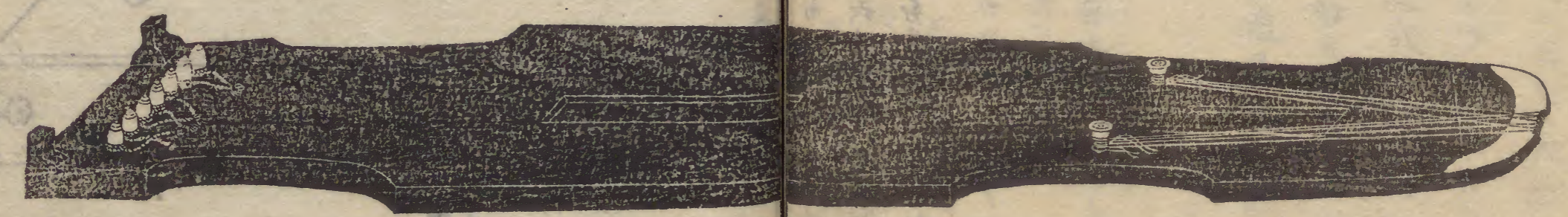
ラズ。サレドモ。断紋ニヨリテオモフニ。干堂ガイヘルゴトク。六七百年ノ
 物ナルコトハ疑ヒナシ。蛇腹牛毛ハ更ニモイハズ。所々ニ梅花断モ
 ミユレバ。千年以上ノ物トイハンセ。オソラクハタガフベカラズ。マコトニ
 殊勝ノ古物ナリ。サテ琴ノ製作ニ定式アルコトハ。琴經ソノ外古
 書ニ詳カナレドモ。マタモテアソブ人ノ好ミニヨリ。長短サマクニテ。一
 概ニハイヒガタシトカ。コノ琴ナドハ。普通ヨリハ少シ大ナルヤウナリ。
 仲尼様トイフゾコレナルベキ。

額ノ長一寸二分 岳廣三分 高四分 五重 兼露廣五分 高一分 五重 岳ノ内ヨ
 リ 焦尾ニ至テ三尺七寸二分 龍觀七分 合テ長三尺九寸九分 幅岳ノ下
 ニテ四寸九分 肩ニテ六寸一分 腰ニテ五寸一分 焦尾ニテ四寸一分 ナリ 但面ハ
 圓ナルユエニ底ノ方ナルカタヲ以テハカレリ 厚サ頸ニテ九分 鳳翅ニテ五
 分 五重冠角ニテ五分 ミノ縁ノ度ナリ 額ノ端ヨリ三寸下リテ鳳喙
 リ長六寸五分 彎ノ深一寸 肩ヨリ腰マデノ鳳翅ノ長一尺四寸九分 龍腰長

七寸一分 彎ノ深六分 ソレヨリ 焦尾ニテ七寸六分 絃眼唐真鍮 鷓目 徽銀
 裏額ノハシヨリ一尺二寸四分 サガリテ 龜池アリ 豎六寸八分 横八分 龍觀ヨリ五寸五分 上
 リテ 鳳沿アリ 豎三寸八分 横八分 龍觀ヨリ一尺九分 サガリテ 鳳足アリ 軫池 豎五分 横四
 寸 護軫 高九分

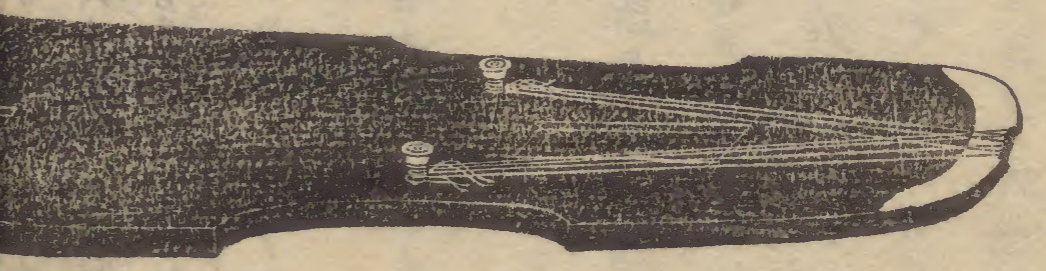
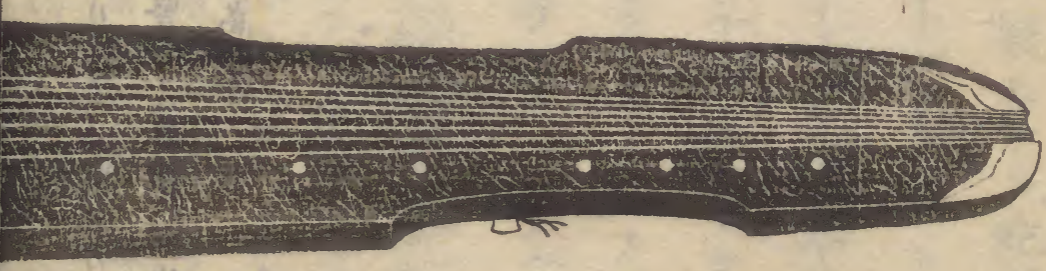


Handwritten text in vertical columns at the top of the left page, likely describing the items shown below.



拈度八分弱

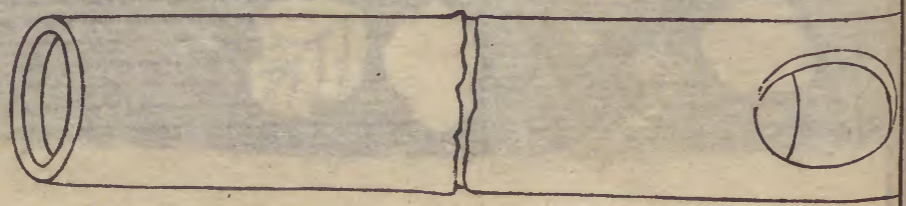
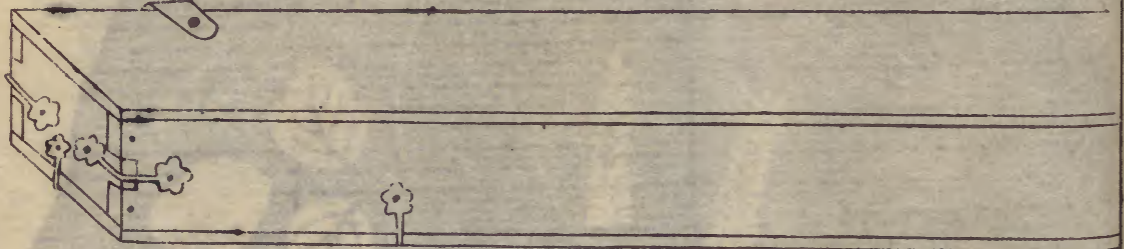
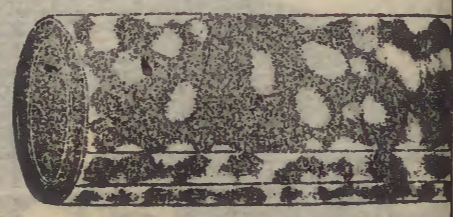
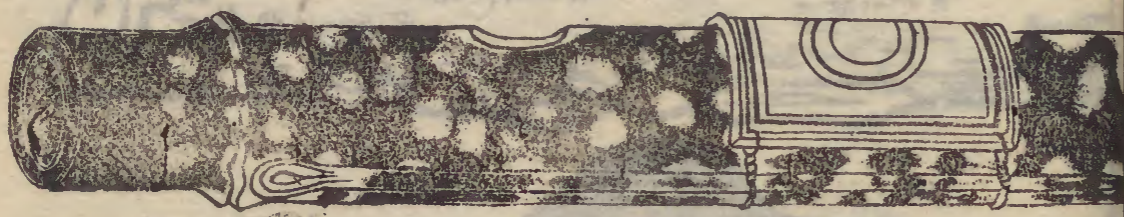
Handwritten text in vertical columns at the top of the right page, likely describing the items shown below.



駐腦笛

豊臣大閣征韓時。カ、國ヨリ献セシ物ナリト云。
 秋長夜話云。嚴島ニ駐腦、笛アリ。奇物ナリ。駐腦ハ西域出ツ漢上ニ來ルハニナ器ナリ。日本ニモ入ルトイヘリ。王子年拾遺記曰。丹丘國有夜叉駒跋之鬼。能以赤馬腦為瓶盃及樂器。ト云。コノ説ノゴ「クナラバ。最奇物トイフベシ。小窓別記ニイカ駐腦。魏后ノ器ナリ。容三升。玉ヲ以テ縫之。八柝西域之鬼作コトヲ云ルニ拾遺記説評ベカラズ。

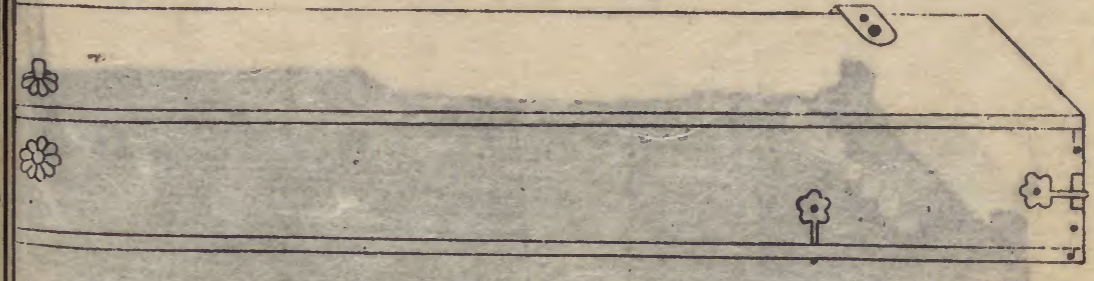
面ノ如キモノヲ以テ哥ロヲフタギタリソノ質羊角ノ如シ



笛上箱

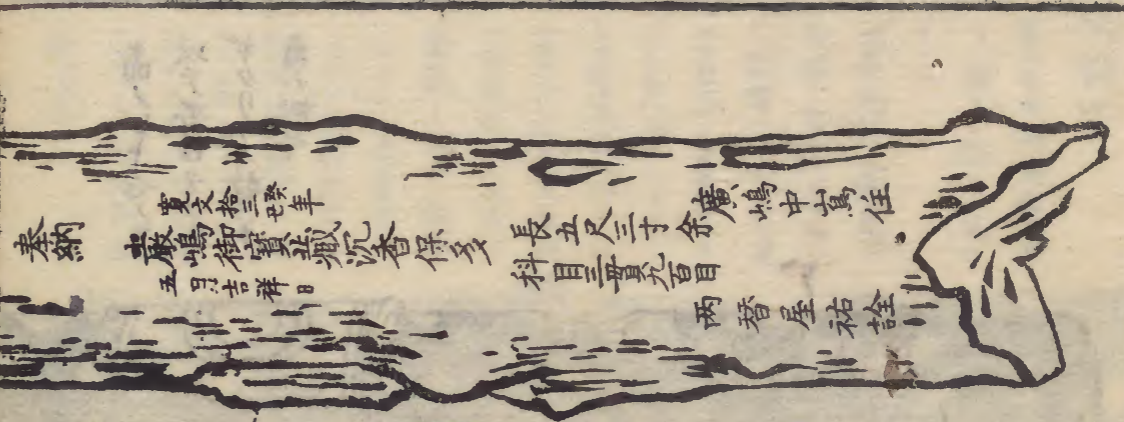
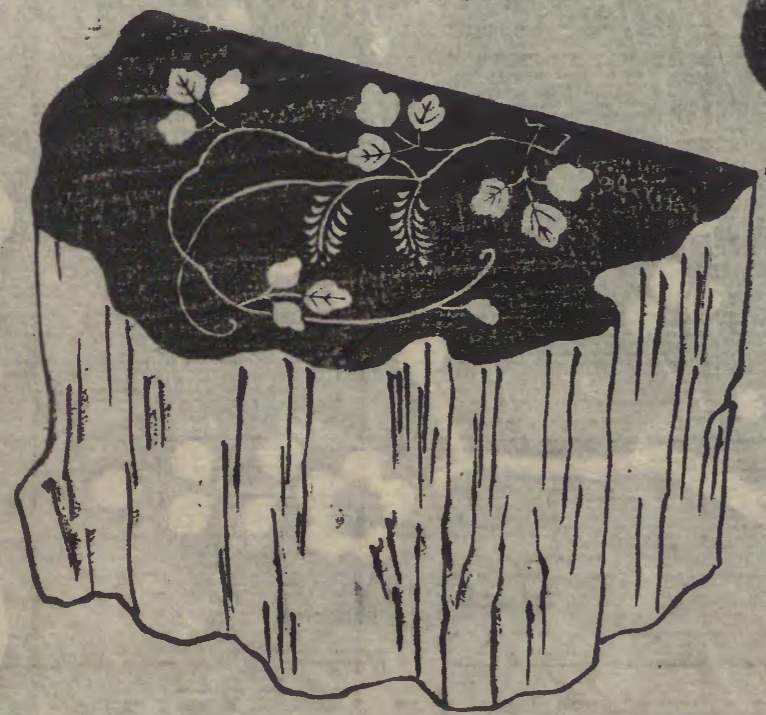
螺ガヒ皮カト物鉄

堅長一尺十三分幅一寸八分高一寸六分



細リ二寸八分

長一尺三寸



奉納
 寛文拾三年
 廣嶋中宮住
 長五尺三寸余
 科目三貫九百目
 五月吉祥日
 兩替屋祐詮

沉枕

木口上ノ方
金一十工



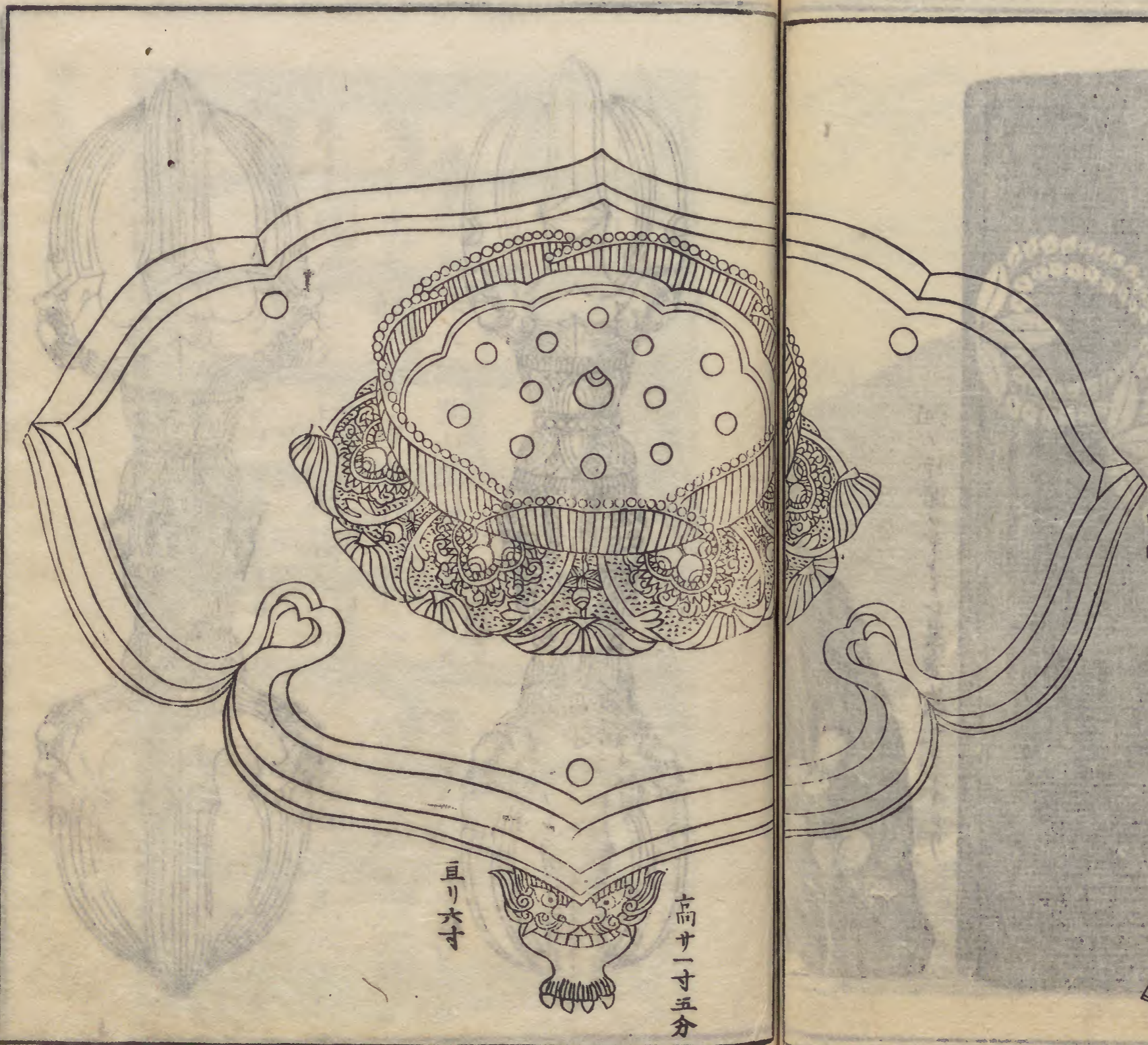


沓ノ斤面ソギオトシ黒塗藤丸ヲマキタリ

上箱クロヌリ赤
漆ヲ以テ淺野
俱馬守内宮
内卿トカキ付
アリ



下ノ木口梅ノ蒔繪



且り六寸

高サ一寸五分

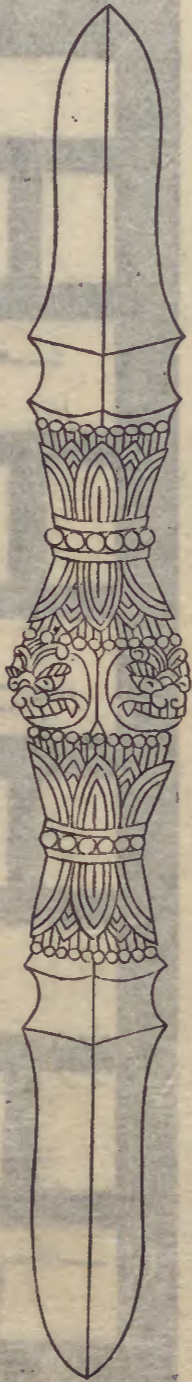
且り九寸
五分



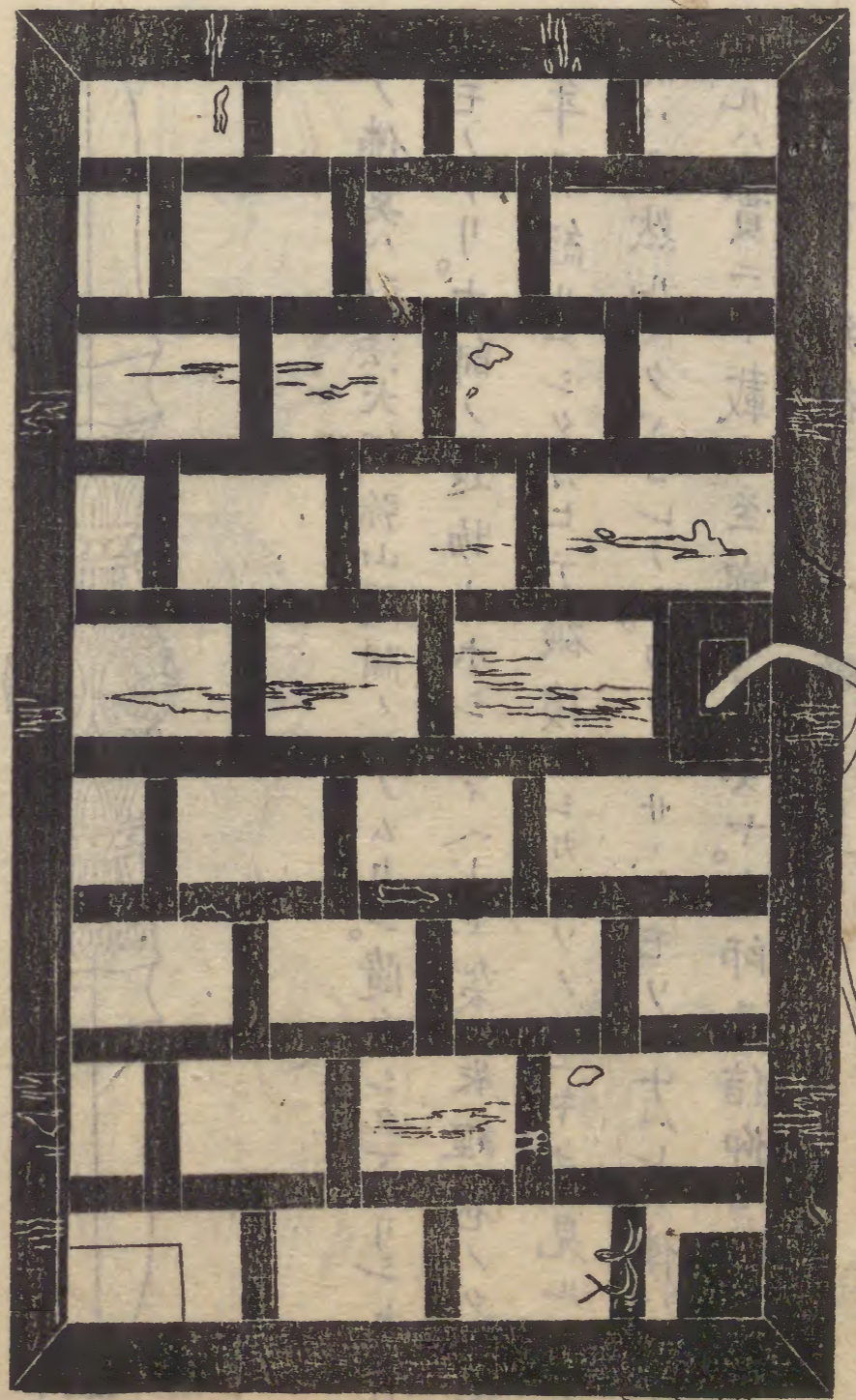
弘法大師隨身佛具鈴杵基盤

コノ佛具ハ。弘法大師。弥山開闢ノソノムカシ。隨身シタマヘリシトコロ
 ノモノナリ。大師ノ遺物オホシトイヘドモ。袈裟經卷ノタグヒ
 ハ。年ヲ經ルニシタガヒテ。破損セシカバ。ソノ全キヲ見ルコト
 能ハズ。然ルニタバコレノミ。カクイサ、カモソコナハレズ。傳ハリキ
 ヌルハ。實ニ千載ノ至寶ニアラズヤ。大師ヲ信仰セン人。縑素
 トモニタレカ。并觀センコトヲ願ハザルベキ。

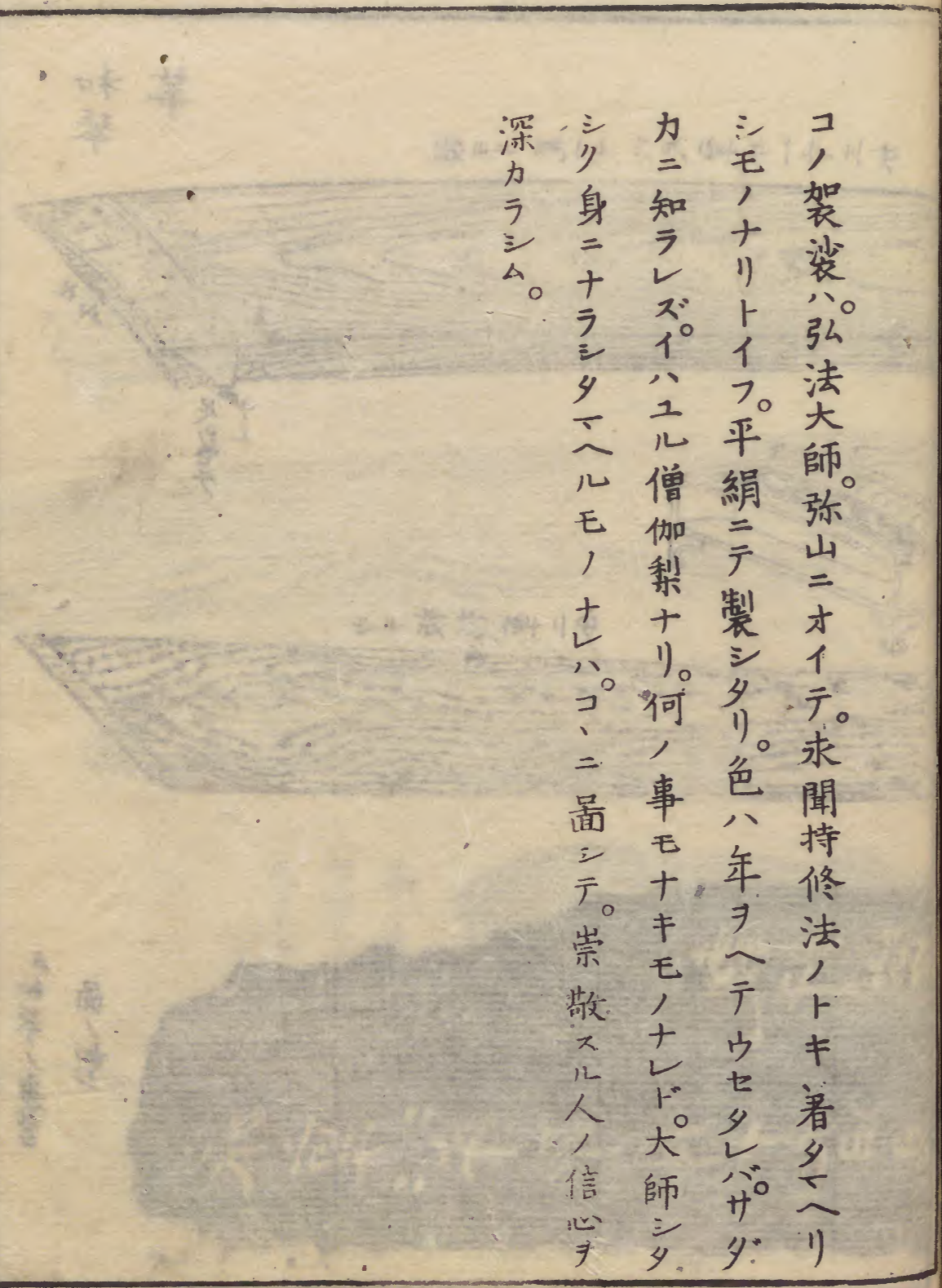
法華大指要



弘法大師袈裟

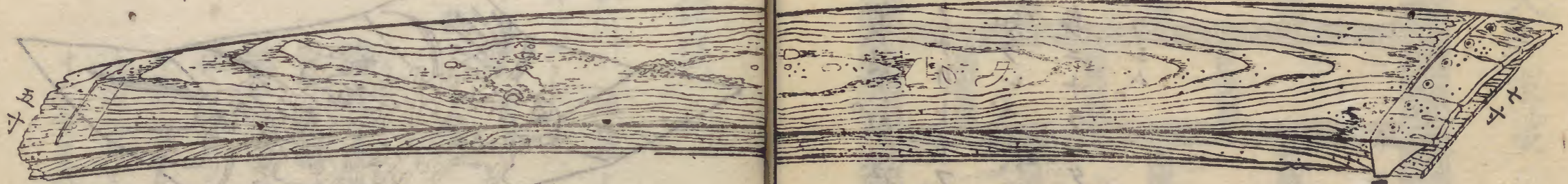


コノ袈裟ハ。弘法大師。弥山ニオイテ。永聞持修法ノトキ。著タマヘリ
シモノナリトイフ。平絹ニテ製シタリ。色ハ年ヲヘテウセタレバ。サダ
カニ知ラレズ。イハユル僧伽梨ナリ。何ノ事モナキモノナレド。大師シタ
シク身ニナラシタマヘルモノナレハ。コノ畚シテ。崇敬スル人ノ信心ヲ
深カラシム。



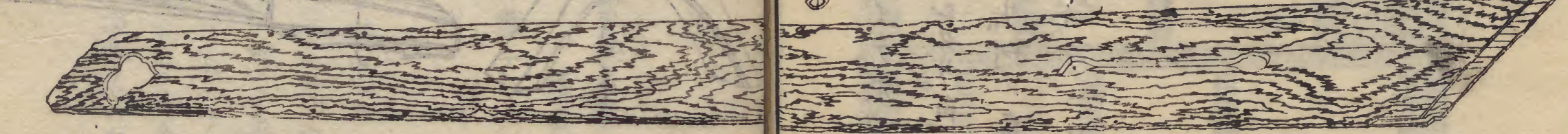
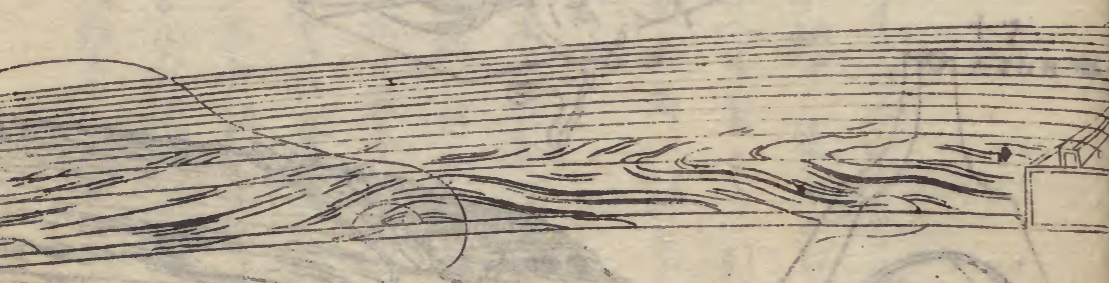
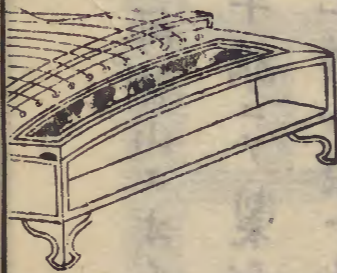
和琴 箏

頭ヨリ尾ニテ六尺厚サ一寸三分



足ウセテ
ナシ

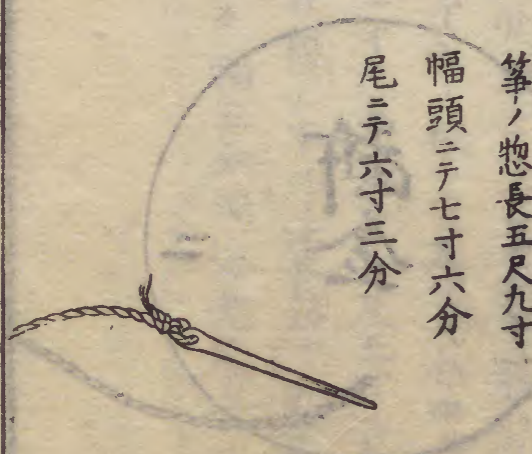
ウラ板杉厚二分



和琴ノ裏書
面ノ如シ

永享三年正月十九日
執行宮

箏ノ惣長五尺九寸
幅頭ニテ七寸六分
尾ニテ六寸三分

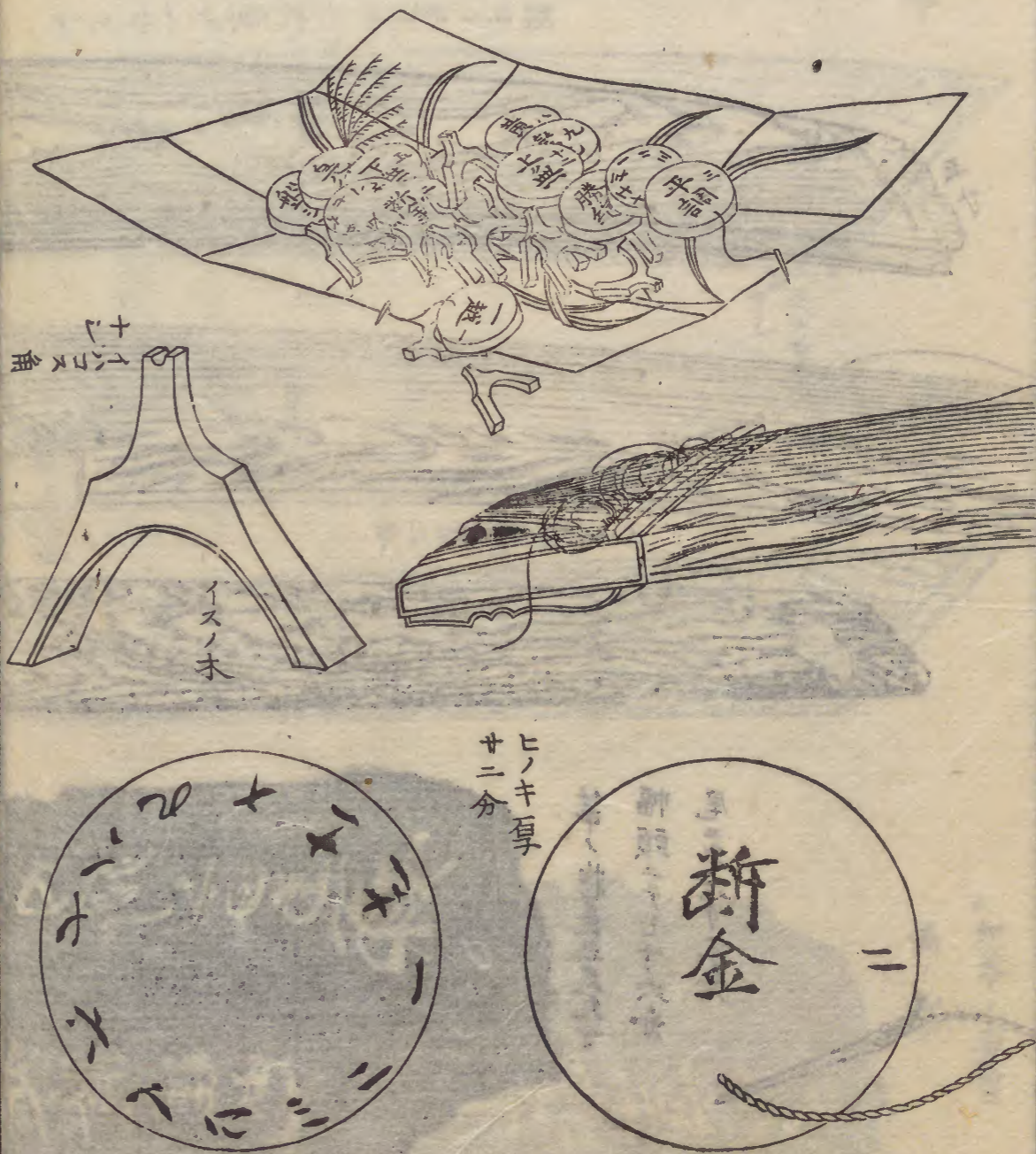


和琴ノ裏書
面ノ如シ

玄上ノ琵琶

谷川ノ琵琶トイフハコレナリ當社ノ樂器ソノ數多シトイヘトモ糸竹ノタタヒニテハ小櫻ノ莖オヨビコノ琵琶ノ上ニ出ルモノアルコトナシツネニハ玄上トヨヘリ玄上ヲ引懸テツクルルニヨリテナリソノヨシハ下ニ載スルトコロノ玄上考ニ詳カナリ

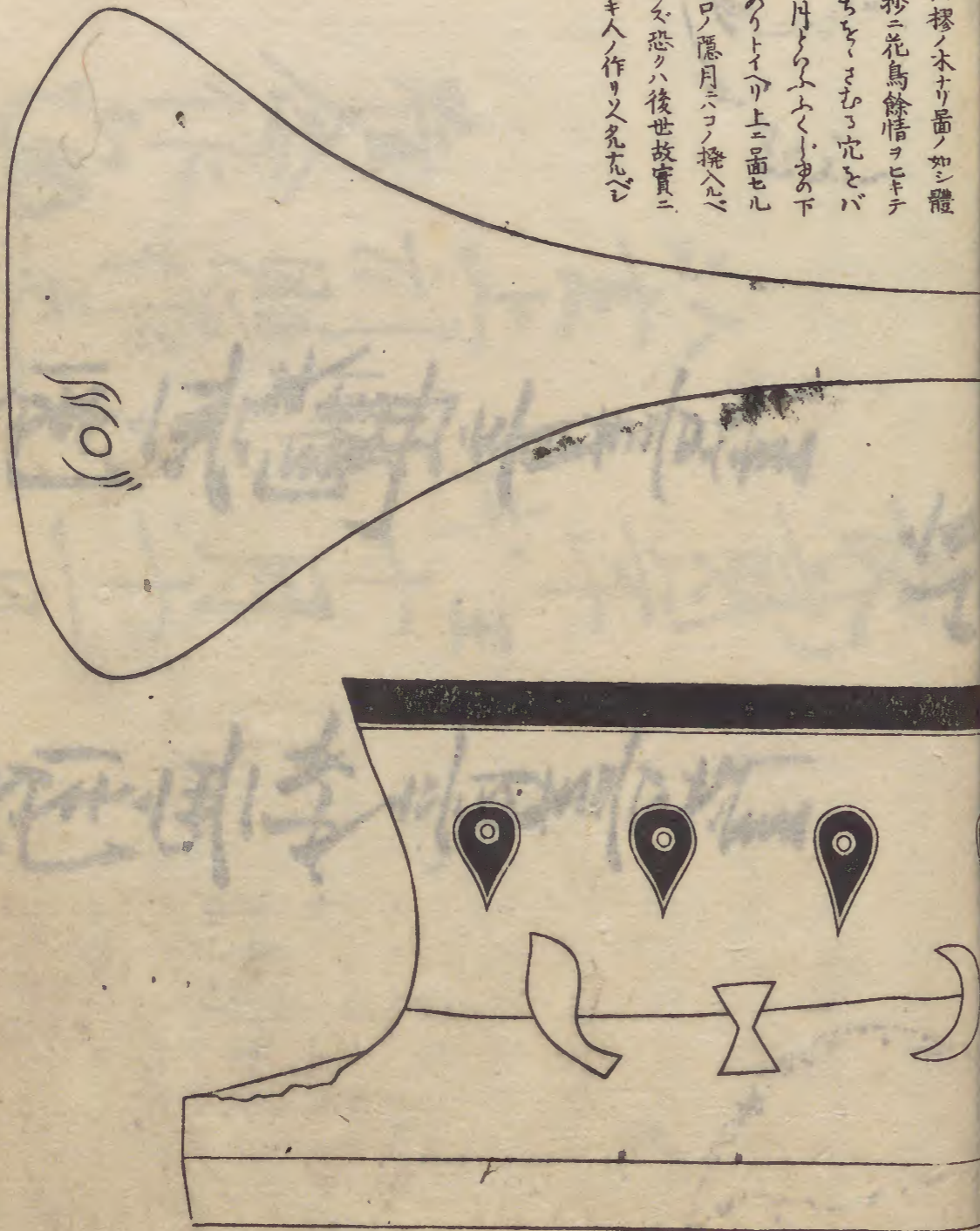
惣長サ三尺三寸二分華欄ノ直甲ニテ縁ノ厚サ壹寸強長サ七寸四分八厘幅腰板ノ付クトコロニテ壹寸六分鎖ニテ七分五厘腰ハ三継合幅壹尺三寸五分ソノ内上ノ板ニテ五寸中ノ板ニテ五寸六分中ノ板ノ棹ニツクトコロ壹寸八分下ノ板ニテ二寸九分長サ二尺五寸二分厚サ縁ニテ三分轉手四寸五分糸倉膠ノ木外法長四寸五分内法鎖ニ付キタル方輻ハ一分強海老尾ノカタ幅三分強海老尾長二寸六分兼絃柱下ハウセテナシ



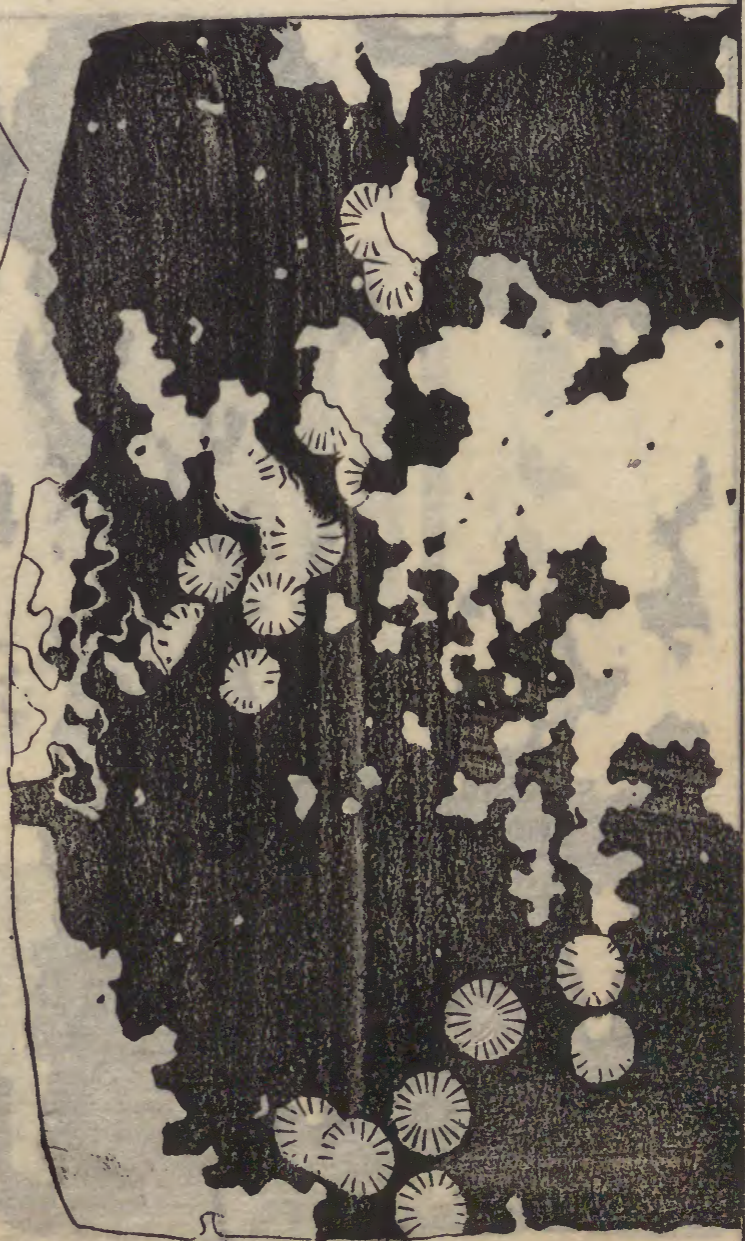
椀面畠ノゴト
シ画ノユエヨ
シ玄上考ニッ
バラナリ下ニ載
タリ



換ハ摺ノ木ナリ畚ノ如シ體
 源抄ニ花鳥餘情ヲヒキテ
 心をささむる穴をバ
 隠月よりふくしあの下
 小ありトイハ上ニ畚セル
 トコロ隠月ニハコノ換ハルニ
 カラ恐クハ後世故實ニ
 ウトキ人ノ作り又丸丸ニ



西復手畚ノゴトシ



南無觀音菩薩

南無妙音菩薩

弘

弘長元年五月十一日
次五十二日
准念作如

暖板ノウラ書
備ノハトシ

玄上考

田中芳樹

玄上ノ琵琶ハ。順徳院天皇ノ禁秘御抄ニ。因ニイフ。禁秘御抄ノ
 ノツケタルモノナラハ。河海抄ニコノ書ヲ引テ。建曆御記トイ
 ヘリ。建曆ハコノ天皇即位ノ年号ナレバ。建曆天皇ノ御記トイ
 フヨシニテ。コレガ正シカルベキ。但賢所ノ篇ニ。去々年内大臣
 織トアル。内大臣ハ。坊門信清公ニテ。建保四年ニ薨シタヘリ。
 コレヲ織トノタマヘルナリ。サテソノ薨ノ年ヲ。去々年トカ、
 セタマヘルヲ以テミレバ。コノ御抄ノ成レルハ。建保六年ノコ
 トナルベシ。然レモイハ。累代寶物也。置中殿御厨子根源。様人不
 ハ普通ノ名ニ随ヘリ。知之。掃部頭貞敏。渡唐之時。所渡琵琶二面。其一枚紫檀直甲也。大
 宋人云。紫檀者大様不可過六七寸。直甲之條不信云。但此甲非
 尺物。紫檀也。凡此琵琶。玄上聲不可說。未曾有物也。為靈物。人為
 跡之時。有貴人如何ハ跡ニスルゾト云テ。入人夢。皆著直衣人也。
 靈物之中。越他。以不淨手不可取。昔无覆自近比。有沙汰。有覆并臺

此琵琶靈驗。内裡燒亡之時。飛出。撥面。又消所々有赤色。不知其繪。
 代々有沙汰未決。俊房云。良道琵琶。移玄上。彼撥面。又不可運。彼唐
 人打毬狀也。或云。玄象吞青鉢之水。所謂号玄象。又玄上宰相。献延
 喜帝。仍号玄上。兩說也。但妙音院。入道。付玄上。說欵トアリ。俊房云
 琵琶ノ七字。普通ノ本。俊房公良通云。琵琶ノ八字ニ。古ヘヨリ。既ニ
 ツクレリ。誤ナルヘシ。ヨリテ異本ヲ以テ改メツ。カクノ如ク。名義フタツニ別レ。是非明ラカナラザリシコトノ。
 不足ク。チヲシクテ。年比イカニゾヤト。覺束十ク思ヒワタリツ
 レド。サシモ尊トキ朝廷ノ御室ヲ。匹夫ノ口ニカケテ論ヒケガ
 サンコト。カツハ人ノ聞耳モオソリナキニアラジト。ノドメ置
 ツルニ。此度嚴島神社ノ宝庫ナル。谷川ト云フ琵琶ノ腰板ノ裏
 書。上ニ画シタルゴトク。弘長二年壬戌十月十一日。以玄上引懸
 作之唯念トアル。作ルキ。琵琶ノ様ヲウツシテ。ヲ見テ。イトウレ

シキコト。玄上ノ名義モ。イマゾ掲焉ニ知ラルベキト。ソノ撥面ノ繪ヲ。熟オモフニ。唐人打毬歌ト。御抄ニアルニヨクカナヘリ然レバ。玄象吞青鉢之水。所謂号玄象トアルカタハ。誤ナルコト決ナシ。御抄ヲカハセタマヒシハ。建保六年ノコトナリ。上件ノイヘソノカミスラ。撥面文消。所々有赤色不知其繪。代々有沙汰未決トアナルモノヲ。四十年餘モ後。弘長二年ニツクリシコノ琵琶ノ撥面ニ。イカバハモトノマ、ヲ摸スコトヲ得シ。コハタガ寸法バカリヲ引懸タルナルベケレバ。繪ハ沙汰ノ限リニアラジト。思ハシ人モアメレド。引懸トイヒナガラ。撥面ヲ異モノニシテヤハオクベキ。按フニコノ琵琶ハ。マダ玄上ノ撥面ノ鮮ヤカナリシホドニ。人ノ引懸オキタルガアリシヲ。唯念フタ、ビソノウツシノ玄上ニヨリテ。マタ引懸ツクレリシナルベシ。

中殿ノ御厨子ナルヲ。スグニ取出テ本トシタルニテハアルベカラズ。コレニ依テ。ガヘリテ。コノ琵琶ニ繪ノ残り傳ハレルニコソ。カクテオモヘバ。玄上トイフ名ハ。一説ノ。玄上、宰相献延喜帝仍号玄上ト御抄ニカ、セタマヘルゾ正シカリケル。打毬ノ玄上トモ玄象トモイフベキヨシハ更ニ十三。妙音院入道ノ玄上宰相ノ名ニヨレル説ヲ用ヒタマヘルハ。擲アリシナルベシ。但玄象ノ説モ。續教訓抄。糸竹口傳ナドニモエテ。向ニ捨ベキニアラネド。オソラクハ。玄上ヲ字音ノ通フマ、ニ假リテ玄象トモカケルヲ。撥面ノ繪消テ後。牽強テ玄象吞青鉢之水ナドイフコトハイヒ出タルナレハ。江談抄ニハ。スガハチ玄上玄象ヲカヨハハルカミ。宰相ハ。八代集抄ニ。中納言諸葛男トミエ。禁秘御抄聞書ニハ。兼平三年正月廿一日薨于時参議従三位七十八歳トミエタリ。兼浦集ニ玄上ノ宰相ノ右近中将マテ。紅梅を弑りておこせりけり。伊勢集ニ。むろかゝの宰相の北のうた。月此何うき夜かどのまへをこりたまふとて。せうそあひのい

ひいきたまつりまねむ。トアル。ちかかえスナハチ玄上ナリ。拾遺集ニ。参議玄上ハルカが免の。月のたうた夜かどのまへハルカにハルカとて。せうハルカといひいハルカをハルカ。ト端書ニテ。伊勢集ナルトオナジ哥ヲ載タルニテ知ベシ。マタ大鏡ニ。玄上ハルカ宰相のむも人のや。乃後朝のつうひよ。敦忠中納言の少将おてハルカたまひくる。トモアリ。コレラニ依ルニ。兼捕伊勢ナドハ時ヲ同ジクシテ。齡ノ長カリシ人ナレバ。清和陽成光孝宇多醍醐朱雀ノ六代ヲゾヘタマヒケム。上件ニアゲタル。禁秘御抄コノ人優タル琵琶ノ上手ニテ。ツネニモテナラシタマヒシ琵琶ヲ。延喜ノ天皇ニ献ジタマヒタルヲ。御抄ニカノセタマヘル如ク。本ノ主ノ名ニヨリテ。ヤガテ玄上ハルカトハオフセタマヘルナラン。やうハルカトナツケシハ。下ニヒケル良道ノ琵琶ヲ。古事談ニ。玄上ノよしみちトイハズシテ。りやうハルカトエハルカルガ如シ。

コト。江中納言ニ人ノ問ケレバ。不知ハルカ延喜ノコロ。玄上ハルカ宰相トイヒケル琵琶ヒキノ琵琶トヤラムトソ。被答ケル。江談抄ニ。予問玄上ハルカ牧馬元者何時琵琶哉。答云。玄象牧馬者。延喜聖主御琵琶上手玄上ハルカト云モノアリ云々。予又問云。然者依ハルカ件名令付欵。延喜聖主御琵琶上手玄上ノ間ニ。カナラマタ系竹口傳ノ或説ニ。玄不脱字アラム。異本ヲ得テ按スベシ。マタハルカ河海抄ニモ。嵯峨天皇等。玄上宰相。琵琶也。主ノ名ヲヒハニツケタリ。トアル。ミナトスルニ足レリ。人ノ名ヲ以テ琵琶ノ名ニセシコト。コレノミナラズ。琵琶合ニ。良道ハルカ賢圓ハルカトイフニツク載セテ良道ハルカハハルカいろうハルカつくハルカいハルカいハルカきハルカ所ハルカをハルカりハルカ。音勢ハハルカちハルカいハルカさハルカれハルカどハルカりハルカやうハルカ免ハルカたハルカ聲ハルカなどハルカ殊ハルカ勝ハルカありハルカ。右大臣是公。孫藤原良道ハルカ琵琶ハルカなりハルカ。仍号良道ハルカよハルカみハルカちハルカトハルカハハルカイハルカフハルカベハルカカハルカラハルカガハルカルハルカコハルカトハルカ。大記ノ康和二年土月廿一日ノ件ニ。比巴字良道ハルカ声ハルカ読ハルカトハルカシハルカ。琵琶合ノ或説ニ。着ハルカ襦ハルカ襦ハルカ者ハルカヲハルカ置ハルカ撥ハルカ面ハルカ依ハルカ之ハルカ称ハルカ襦ハルカ襦ハルカトハルカシハルカエハルカタハルカリハルカ。コレハルカ玄象ハルカ吞ハルカ音ハルカ鉢ハルカ之水ハルカニハルカヨハルカリハルカテハルカ。玄象ト名ゾケシトイフニオナジキ。牽強ノ説ナ

カラ。禪ぜん道だうト字音ヲ通ハシ用ヒタルニテ。賢けん圓えんハ琵琶血脉
リヤウりやうダウだうトヨムベキ證ニハ足レリ。嵯峨供奉トアレバ。僧ノ名ナリ。玄上モコレニ准のりヘテ人ノ名
ナルヲ知ベシ。或人問テ云ク。シカラバ玄上ハ。はるかノ宰相
ノ始メテ作り出タマヘルビハナルカ。予答ク。然ラズ。ソノハジ
メハ唐ノモノナリ。三代實録ニ。貞觀九年十月四日ノ件ニ。從五
位上掃部頭藤原朝臣貞敏率。兼和五年到大唐。達上都。逢能彈琵琶
者劉二郎。劉二郎臨別。設祖筵。賜紫檀紫藤琵琶各一。是歲
大唐大中元年。本朝兼和六年也。トアル。紫檀ハコノ玄上ナリ。胡
教録ノ師說ニ。玄上。紫檀ノ飛多ヒタカ甲。膝ハ塩地ナ一。總合。孝道云。
五枚。繼ナリ。糸竹口傳ニ。紫檀。琵琶トアリ。トヒケリ。
續日本後紀ニ。兼和六年冬十月朔。令遣唐使准判官正六位上藤
原貞敏。彈琵琶トアルハ。コノ劉二郎が賜ニタル琵琶ヲ取カヘ
リテ。彈ケリシニゾアラム。糸竹口傳ニ。玄象ハ深草ノ帝ノ御時

掃部頭貞敏。モロコシヘワタリテ。琵琶ヲナラヒケルトキ。師ノ
手ヨリ傳タリ。延喜帝ノ御物ナリ。紫檀ノ混ヒミ甲ナリ。續教訓抄ニ。
古記云。玄象ハ。唐ノ琵琶ノ師。劉二郎が琵琶ナリ。深草帝ノ御時。
掃部頭貞敏が。唐ヘワタリテ。琵琶ナラヒケルトキ。得タルビハ
ナリ。東齋隨筆ニ。村上聖主。明月の夜。清涼殿の晝の御座ゴザニして。
玄上。以水牛の角ツノ比搖ユマテ。彈ヒキマシテ。たゞ一所御座ゴザけるカ。か
げの如くなるごともの。空より飛トビテ參マタリ。孫ニ鹿カニカリクレルを。うき
ハ何者ぞと問トハシ。欠ヒタマス所ヲ。テテ去ク。唐の琵琶の博士廉兼
武ムニ。唯今空カラニカリト通ス。トトハツ。御琵琶のはち音の。い
まいに。參入マスト。とトハツ。なり。おおくくハ。むむ。貞敏ニ授タ殘
したる曲のハ。授タマシ。とト申ス。聖主ノ感カのハ。たたり
して。御琵琶をさしやしし。欠ヒタマスハ。たたりクレルを。ひまなしして。

これハ廉美武ガ琵琶ハルカミニハ。貞敏マコトニツ賜タマヒハ内ウチニテハ申マウルリ。
終夜御物語ヨモスカラワリテ。上ウヘ玄石上ゲンシキウヘの曲マカハ授奉ウケタマフルリ。平家物語ニ
トアルヲ以テオモフニ。貞敏ノ唐ヨリ持テ渡リシモノナルヲ。
玄上ハルカミ宰相ノコノコトニ優スガレタマヘルヲメデハ。傳ウツヘタレド。貞敏
ハ兼和六年ニ唐ヨリカヘリ。貞觀九年ニ卒セリ。玄上ハルカミハ。兼平三
年ニ七十八歳ニテ薨シタマヘルコト。上ウヘ件ニイヘリ。サレバ貞敏
ノ老タリシコトハ。玄上ハルカミノソノ時マデハ。タバ本ノマ、ニ紫
檀シタン琵琶トノミ去タリケンヲ。三代實録ニ紫檀紫藤琵琶各一ト
アリテ。別ニ名ヲ奉ラレサルヲ證シトス。玄上ハルカミ宰相ヨリ延喜ノ天皇ニ奉リタマヒ。ソノ後。玄上ハルカミノ名
出來リシコト上ウヘ件ニ論アハヘルガ如シ。マタオモフニ。玄上ハルカミ宰相ノ
ノ外ノ書ニモ。コノ人琵琶ノ上ウヘ手ニオハシケルコトヲミアタ
ラネバ。上ウヘ件ニヒキシ。東齋隨筆ニイヘル。上ウヘ玄石上ノ四字ニヨ
リテ。玄上ハルカミト名ツケタルニハ。アラヌニヤトモオモヘド。御抄ニ
モカ、セタマハヌコトヲ。オノガウガチイハシモ。サシスグイ
タリト人ヤオモハシト。耻ハカシソレヨリコナ夕代々ノ朝廷ノ
サニウケバリテモ論アハラハズ。

御寶ミタカラトシテ神奎鏡カミタマ劔ノサニ次ツギニ尊ウツクシトハレシモノナレハ。琵琶
今此至イマココニ玄象者。潛魚之無ナシ心。幼兒之不言コトヲ可感カニ之誠。是日域無雙靈
物。宸居累代名器也。夕ユフハ音抄ニ古コ名物ナモノのうウち。世ヨの中ナカハ殘
りノたタるルハハつツありアリ。玄上ハルカミ内ウチ裡ナカ。牧馬カウマ。良道リョウダウ。木繪キエ。小琵琶コヒタ。明アキラ院イン。寶藏ホウゾウ。井手
習ナラ橋ハシ。經キヨ藏ゾウ。院イン。元興寺ゲンキョウジ。經藏キョウゾウ。平ヘイ藏ゾウ。院イン。ナド。カズ多オホシカカルル名物ナモノ。其ソノ所
彼カ所トコロニ。朝廷ノ御室ミモロナリ。玄上ハルカミ百練抄ヒャクレンシヨウニ。天元五年十一月十七日。内
裏ウラ燒ヤク亡シ。天皇御職ミカドノミカド。曹司ソウジ。或記アハス。冷上ヒヤウヘ之間。累代御物多オホシ紛失マギナシ。紫檀御
脇ワキ息イブキ玄上ハルカミ等也。十二月六日。玄上ハルカミ從式ジュウシキ。御曹司ミソウジ。東垣トウケン。付物ツケモノ。技テ落オチ畢ハシ。御
ニ。此琵琶ヒタ。靈驗レイケン。内裡ウチナカ燒亡ヤクシ之時。飛出トビデ。體源抄テイゲンシヨウニ。昔ヨリ靈物ニテ。内
裏ウラ燒亡ヤクシノ時モ。人ノ取出トビデサヌサキニ。トビ出トビデテ。大庭ノムクノ木
ノ末スエニ。ゾカ、リケル。ナトアルモ。天德燒テンデク。同書ニ。壽永二年七月
亡シノ時ノコトヲイヘル。ナルヘシ。北五日。平家黨類前内大臣已下。牽ヒキ一族イツク。出イデ奔ハシ西海セウカイ。天皇建礼門院。
同奉相具ドウホウサウキ。内侍所神鏡ウチノミカドノミカド。神奎カミタマ。宝劔ホウケン。時簡殿上御倚トキカンテンノミカドノミカド。子玄上コノハルカミ。鈴鹿皆以
相具サウキ。八月五日。玄上ハルカミ出來イデ。大夫尉知康タウフヱリチカウ。於路頭見付オノミチノミテ。即進院ソクシンイン。系ケ行ユク口
平家西國ヘイカセイコクへ落行オチユクトキ。玄上ハルカミナラビニ鈴鹿取具スズカノミテ。落オチトスル
ニ。女官メカノミカド。女孀メカノミカド。心カシコク取カクシテケリ。ウセニケリト御ミカドナゲ

この寺社の小松重盛古硯
東てつらつら一玄上考をて

柳守元貞

とつたもののね一なる一なる
くつたものね一なる一なる

くつたものね一なる一なる

くつたものね一なる一なる

くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる
くつたものね一なる一なる

一遍上人画卷物所載嚴島古圖

古制回廊釣燈籠

小松内府重盛古硯

以上三品六社司柳守氏ニ傳來スル所ニシテ神庫ニヲサムルモ
ニアラズトイヘ共今爰ニ附シテ好事家ノ翫具ニ備フ中ニモ
画卷物ニ載スル所ハ即今ノ結構トハ殿廊漸異ナル所アリ
テ當時ノ趣ヲ見ルニ足レリ

一遍上人画卷

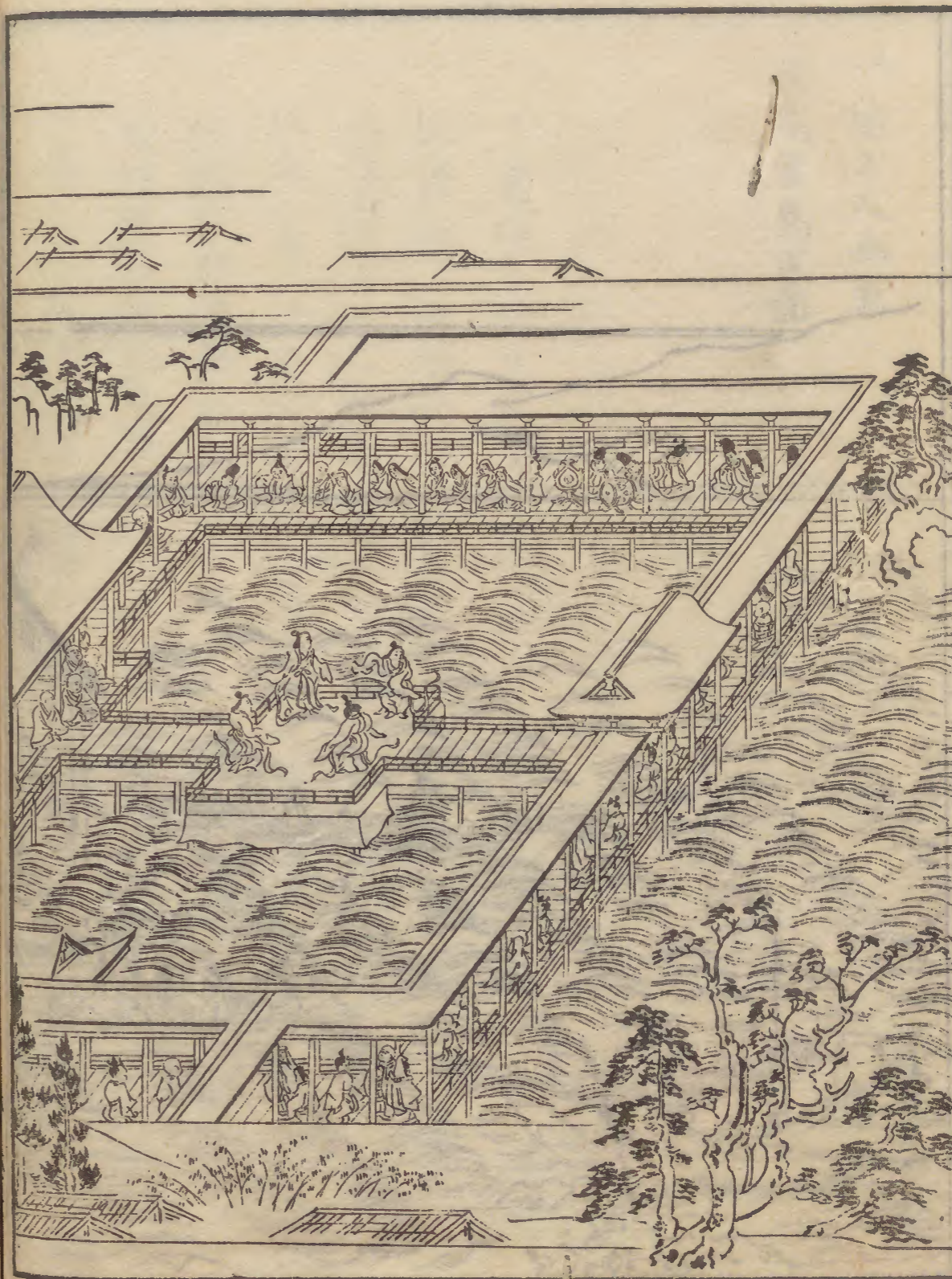
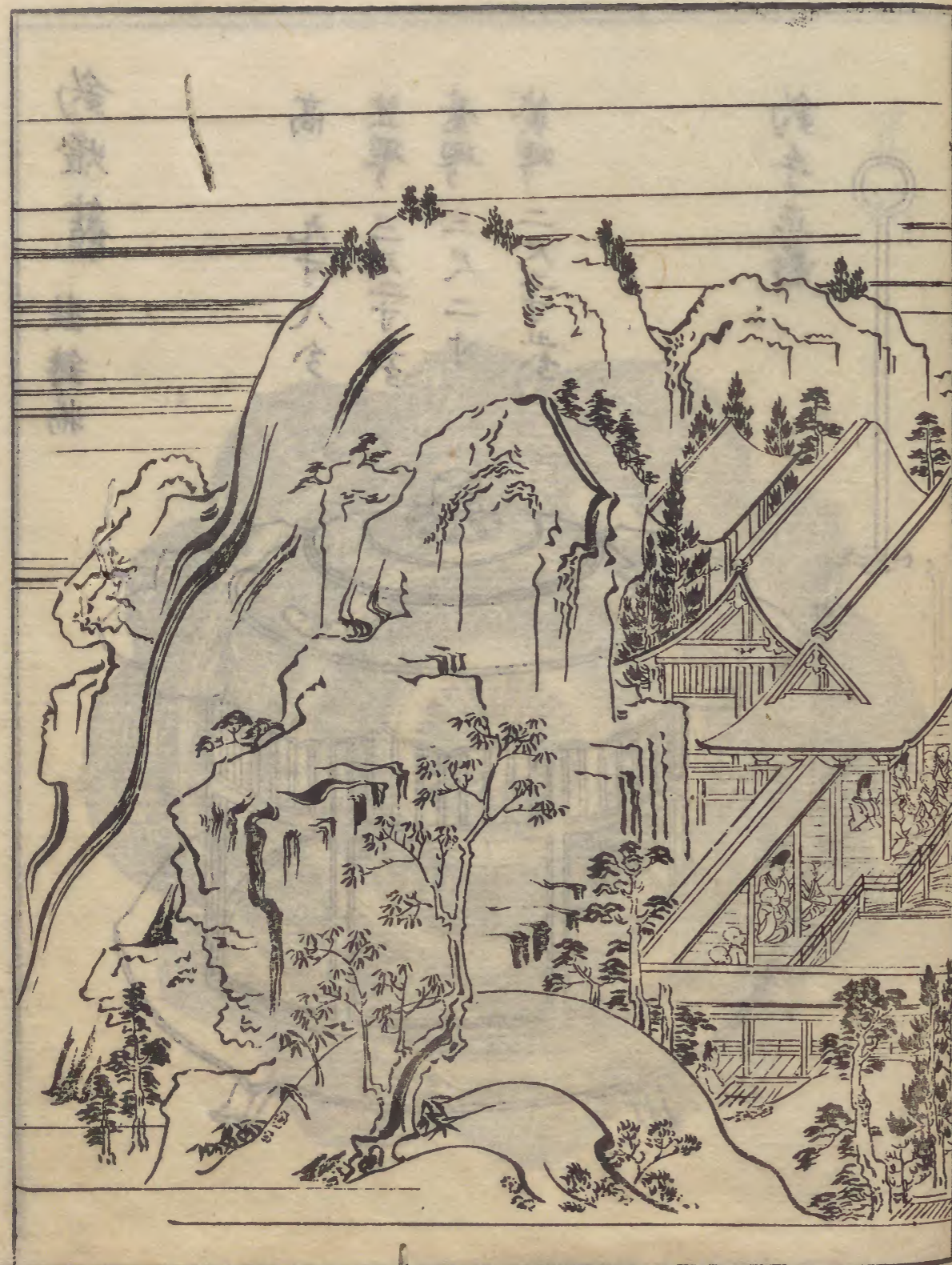
二

一遍上人画卷
所載當島古蹟

天竺... 畫卷... 二... 以上... 小... 古... 一...



春隆頓編圖



釣燈籠 鉄鑄物

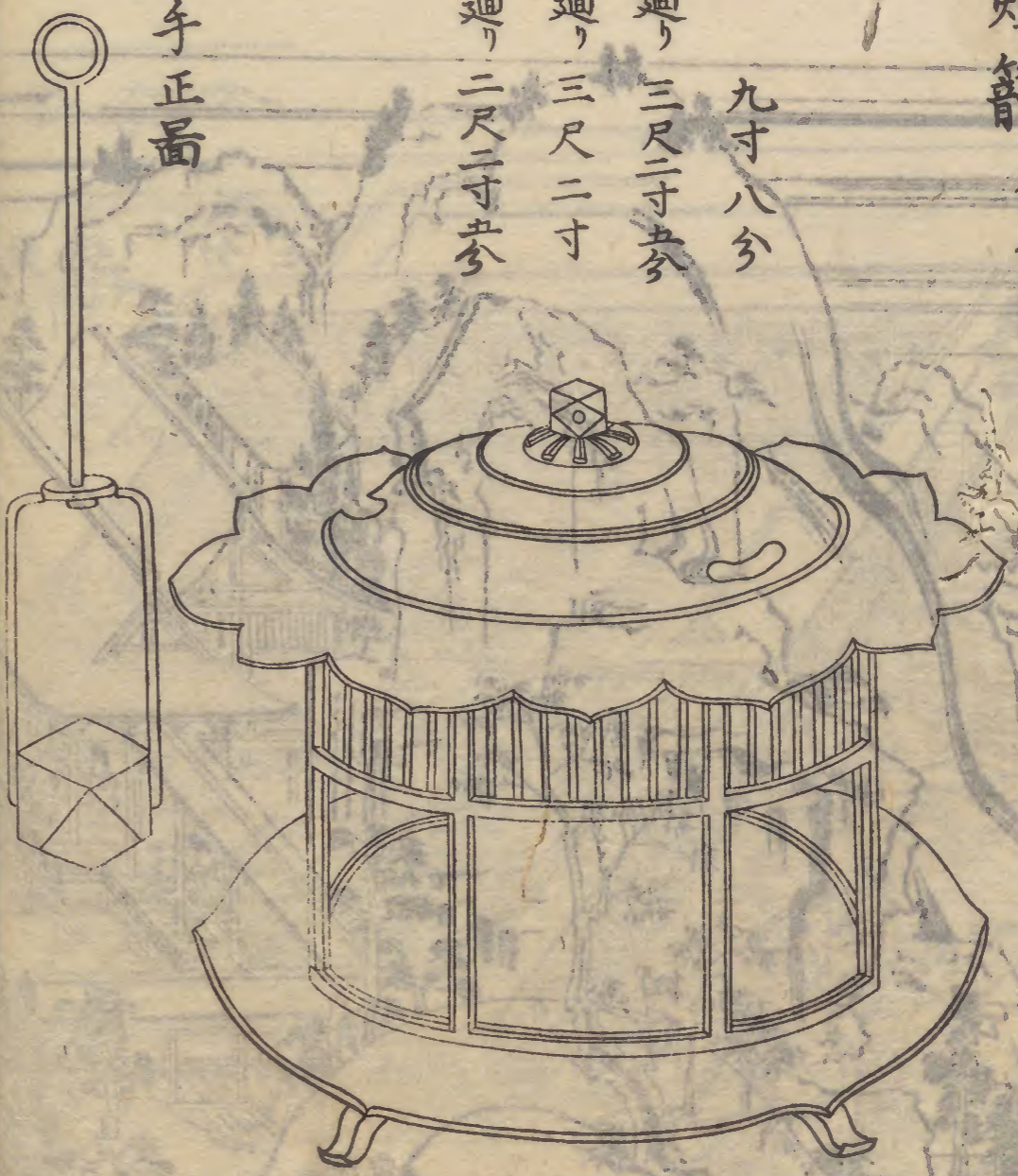
高 九寸八分

笠廻り 三尺二寸五分

臺廻り 三尺二寸

袋廻り 二尺二寸五分

釣手正番



笠銘



小松内府古硯



巖島寶物圖會卷之六

終

紫石
大如圖
厚八分
背無銘



